



Newland AIDC
Scanning Made Simple



OEM スキャンエンジン

NLS-N1

**User
Guide**

免責事項

© 2023 新大陸自動識別技術有限公司 All rights reserved.

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャンエンジンを解体したり、スキャンエンジンからラベルをはがしたりしないでください。その場合、新大陸自動識別技術有限公司（Newland）の保証の対象外となります。

この取扱説明書の製品図は全て見本であり、実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで説明する情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品には、当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合がございます。お客様は個人、法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部の複製、流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

新大陸自動識別技術有限公司（Newland）

中国福建省福州市馬尾区儒江西路 1 号 A ビル 3 階新大陸科技园 350015

<http://www.newlandaidc.com>

改訂履歴

バージョン	内容	改訂日
V1.0.0	初版	2020年3月25日
V1.0.1	第6章に「反転映像」のセクションを追加しました。	2020年6月19日
V1.0.2	160、162 ページに Aztec のシンボロジーを追加しました。	2020年10月9日
V1.0.3	第3章の「バーコードスキャン」設定のセクションを更新しました。	2020年11月25日
V1.0.4	第3章の「デコード範囲」のセクションに Acuread Decoding の説明を追加しました。 第5章の「VID/PID」のセクションを更新しました。 第6章の「EAN-8」のセクションに、「EAN-8 から EAN-13 へ変換」と「EAN-13 から EAN-8 へ変換」を追加しました。 第6章の「白黒反転」のセクションに注意文を追加しました。	2021年5月31日
V1.0.5	「Code 39 フルアスキーの有効化/無効化」、「スキャンモード」、「感度」、「ストップキャラクタのサフィックスを有効化/無効化」のセクションの初期設定を更新しました。	2022年2月11日
V1.0.6	ドキュメントの書式を更新しました。 第8章の「ASCII ファンクションキーマッピング表」のセクションを更新しました。	2022年8月12日
V1.0.7	「VID/PID」のセクションを更新しました。 工場出荷時設定表を更新しました。	2022年11月15日
V1.0.8	表 4-3 を更新しました。	2022年12月12日
V1.0.9	第8章の「VID/PID」のセクションを更新しました。 第9章の「セキュリティレベル」のセクションを追加しました。 第10章の「GS1 Databar (RSS)」のセクションに、「GS1 Databar Omnidirectional (RSS14)の有効化/無効化」、「GS1 Databar の有効化/無効化」、「GS1 Databar Expand の有効化/無効化」、「GS1 Databar の長さを設定」を追加しました。 第10章の「Code 93」のセクションから「チェックキャラクタ検証」を削除しました。 工場出荷時設定表の QR コードの最大長さを 6144 に変更しました。 工場出荷時設定表の Code 11 初期設定の「チェックキャラクタ検証」を更新しました。	2023年2月14日

目次

改訂履歴.....	3
「VID/PID」のセクションを更新しました。.....	3
表 4-3 を更新しました。.....	3
第 8 章の「VID/PID」のセクションを更新しました。.....	3
第 9 章の「セキュリティレベル」のセクションを追加しました。.....	3
第 10 章の「Code 93」のセクションから「チェックキャラクタ検証」を削除しました。.....	3
工場出荷時設定表の QR コードの最大長さを 6144 に変更しました。.....	3
工場出荷時設定表の Code 11 初期設定の「チェックキャラクタ検証」を更新しました。.....	3
はじめに.....	16
概要.....	16
各章紹介.....	16
記号について.....	17
アイコンについて.....	17
第 1 章 使用開始.....	18
概要.....	18
シンボロジー.....	18
N1 スキャンエンジン.....	18
第 2 章 製品取付.....	19
概要.....	19
寸法 (単位: mm).....	19
マウント.....	19
13 ピン FPC コネクタ.....	20
コネクタ仕様.....	21
FPC ケーブル.....	22
ESD.....	22
ほこりと汚れ.....	22

周辺環境.....	23
熱に関する注意事項.....	23
メンテナンス	23
第 3 章 光学的仕様.....	24
概要.....	24
センサー.....	24
イルミネーション	24
エイマー.....	25
ウィンドウ配置.....	25
ウィンドウの素材と配色.....	26
コーティングと擦り傷防止.....	26
ウィンドウの寸法	27
間接照明.....	29
目の安全のために	29
被写界深度	29
第 4 章 電氣的仕様.....	30
電源.....	30
リップルノイズ.....	30
インターフェースのピン配置	31
DC の特徴	32
操作電圧	32
動作電流	33
I/O 電圧.....	33
タイミングシーケンス	34
タイミングシーケンスを起動	34
第 5 章 外部リファレンス回路.....	35
外部回路設計	35
グッドリード LED 回路.....	35
ブザー回路.....	36
トリガー回路	36
外部イルミネーション制御回路.....	37

第 6 章 EasySet	38
第 7 章 各種設定	39
概要.....	39
バーコードプログラミング.....	39
コマンドプログラミング.....	39
EasySet プログラミング.....	39
プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能.....	40
プログラミングバーコードの使用.....	41
初期設定.....	42
工場出荷時設定.....	42
カスタムデフォルト.....	42
製品情報をクエリ.....	43
製品名をクエリ.....	43
ファームウェアバージョンをクエリ.....	43
デコーダーバージョンをクエリ.....	44
ハードウェアバージョンをクエリ.....	44
製品シリアル番号をクエリ.....	44
製造日をクエリ.....	45
OEM シリアル番号をクエリ.....	45
データフォーマッタバージョンをクエリ.....	45
第 8 章 通信インターフェース	46
概要.....	46
適用される通信設定.....	47
TTL-232 インターフェース.....	48
ボーレート.....	49
パリティチェック.....	50
データビット.....	51
ストップビット.....	51
USB HID キーボード.....	52
USB 国別キーボードタイプ.....	53
不明な文字の警告ブザー.....	57
Emulate ALT+キーパッド.....	58
コードページ.....	59
Unicode エンコード.....	61

先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	61
ファンクションキーマッピング	62
ASCII ファンクションキーマッピング表	63
ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)	64
キーストローク間のディレイ	65
Caps Lock	66
大文字小文字の入れ替え	67
テンキーをエミュレート	68
ファストモード	70
ポーリングレート	71
USB CDC	73
HID POS (POS HID バーコードスキャナー)	74
概要	74
自分のプログラムでスキャンエンジンへアクセス	74
スキャンデータの取得	75
コマンドをスキャンエンジンへ送信	75
IBM SurePOS (テーブルトップ)	76
IBM SurePOS (ハンドヘルド)	76
VID/PID	76
第9章 スキャン設定	77
スキャンモード	77
デコードセッションのタイムアウト	78
手振れ補正タイムアウト (センスモード)	80
感度 (センスモード)	81
スキャン間隔 (連続モード)	82
再読み取りタイムアウト	82
グッドリードのディレイ	84
バーコード別スキャン設定	85
セキュリティレベル	86
デコード範囲	87
画像反転	90
読み取りエラーメッセージ	91
読み取りエラーメッセージを設定	91

トリガーコマンド	92
Start Scanning コマンドを修正	92
Stop Scanning コマンドを修正	93
内蔵イルミネーション	94
エイミング	95
グッドリード LED	95
グッドリード LED 持続時間	96
電源オンブザー	97
グッドリードブザー	97
グッドリードブザーの持続時間	98
グッドリードブザーの周波数	99
グッドリードブザーの音量	100
操作モード	101
オートスリープ	101
第 10 章 シンボロジー	102
概要	102
グローバル設定	102
全てのシンボロジーを有効化/無効化	102
1次元シンボロジーを有効化/無効化	102
2次元シンボロジーを有効化/無効化	103
1次元ツインコード	103
白黒反転のバーコード	103
GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む	104
Code 128	106
工場出荷時設定に戻す	106
Code 128 を有効化/無効化	106
Code 128 の長さを設定	107
チェックキャラクタを送信	108
FNC1 出力	108
EAN-8	109
工場出荷時設定に戻す	109
EAN-8 を有効化/無効化	109
チェックキャラクタを送信	109

2桁のアドオンコード.....	110
5桁のアドオンコード.....	111
アドオンコードをリクエスト.....	112
EAN-8 から EAN-13 へ変換.....	112
EAN-13	113
工場出荷時設定に戻す.....	113
EAN-13 を有効化/無効化.....	113
チェックキャラクタを送信.....	114
2桁のアドオンコード.....	114
5桁のアドオンコード.....	115
アドオンコードをリクエスト.....	116
290 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	116
378/379 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	116
414/419 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	117
434/439 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	118
977 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	119
978 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	119
979 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト.....	120
UPC-E	121
工場出荷時設定に戻す.....	121
UPC-E を有効化/無効化.....	121
チェックキャラクタを送信.....	122
2桁のアドオンコード.....	122
5桁のアドオンコード.....	123
アドオンコードをリクエスト.....	123
プリアンブルキャラクタを送信.....	124
UPC-E から UPC-A へ変換.....	124
UPC-A	125
工場出荷時設定に戻す.....	125
UPC-A を有効化/無効化.....	125
チェックキャラクタを送信.....	125
2桁のアドオンコード.....	126
5桁のアドオンコード.....	127
アドオンコードをリクエスト.....	128
プリアンブルキャラクタを送信.....	128
インタリーブド 2 of 5 (ITF コード).....	129

工場出荷時設定に戻す	129
インタリーブド 2 of 5 を有効化/無効化.....	129
インタリーブド 2 of 5 の長さを設定.....	130
チェックキャラクタ検証	131
Febraban	132
Febraban を有効化/無効化.....	132
キャラクタあたりのディレイを送信.....	132
12 キャラクタあたりのディレイを送信.....	135
ITF-14	137
工場出荷時設定に戻す	137
ITF-14 を有効化/無効化	137
ITF-6	138
工場出荷時設定に戻す	138
ITF-6 を有効化/無効化	138
マトリックス 2 of 5	139
工場出荷時設定に戻す	139
マトリックス 2 of 5 を有効化/無効化.....	139
マトリックス 2 of 5 の長さを設定	140
チェックキャラクタ検証	141
Code 39	142
工場出荷時設定に戻す	142
Code 39 を有効化/無効化	142
Code 39 の長さを設定	143
チェックキャラクタ検証	144
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信.....	145
Code 39 フルアスキーを有効化/無効化.....	145
Code 32 (イタリア製薬業界用コード)を有効化/無効化.....	146
Code 32 プリフィックス	146
Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信	147
Code 32 チェックキャラクタを送信	147
Codabar	148
工場出荷時設定に戻す	148
Codabar を有効化/無効化	148
Codabar の長さを設定.....	149
チェックキャラクタ検証	150

スタート/ストップキャラクタ	151
Code 93	152
工場出荷時設定に戻す	152
Code 93 を有効化/無効化	152
Code 93 の長さを設定	153
GS1-128 (UCC/EAN-128)	154
工場出荷時設定に戻す	154
GS1-128 を有効化/無効化	154
GS1-128 の長さを設定	155
チェックキャラクタを送信	156
FNC1 出力	156
GS1 Databar (RSS)	157
工場出荷時設定に戻す	157
GS1 Databar を有効化/無効化	157
GS1 Databar Omnidirectional (RSS14)を有効化/無効化	158
GS1 Databar Limited を有効化/無効化	159
GS1 Databar Expand を有効化/無効化	160
GS1 Databar の長さを設定	161
アプリケーション識別子 (01) を送信	162
Code 11	163
工場出荷時設定に戻す	163
Code 11 を有効化/無効化	163
Code 11 の長さを設定	164
チェックキャラクタ検証	165
チェックキャラクタを送信	166
ISBN	167
工場出荷時設定に戻す	167
ISBN を有効化/無効化	167
ISBN フォーマットを設定	167
ISSN	168
工場出荷時設定に戻す	168
ISSN を有効化/無効化	168
インダストリアル 25	169
工場出荷時設定に戻す	169

インダストリアル 25 を有効化/無効化	169
インダストリアル 25 の長さを設定	170
チェックキャラクタ検証	171
スタンダード 25	172
工場出荷時設定に戻す	172
スタンダード 25 を有効化/無効化.....	172
スタンダード 25 の長さを設定	173
チェックキャラクタ検証	174
Plessey	175
工場出荷時設定に戻す	175
Plessey を有効化/無効化	175
Plessey の長さを設定	176
チェックキャラクタ検証	177
MSI-Plessey.....	178
工場出荷時設定に戻す	178
MSI-Plessey を有効化/無効化.....	178
MSI-Plessey の長さを設定	179
チェックキャラクタ検証	180
チェックキャラクタを送信.....	181
AIM 128.....	182
工場出荷時設定に戻す	182
AIM 128 を有効化/無効化.....	182
AIM 128 の長さを設定	183
チェックキャラクタを送信.....	184
FNC1 出力	184
PDF417.....	185
工場出荷時設定に戻す	185
PDF417 を有効化/無効化.....	185
PDF417 の長さを設定	186
PDF417 ツインコード	187
文字エンコード.....	188
PDF417 ECI 出力.....	188
QR コード.....	189
工場出荷時設定に戻す	189
QR コードを有効化/無効化.....	189

QR コードの長さを設定	190
QR ツインコード	191
文字エンコード	192
QR ECI 出力	192
Micro QR コード	193
工場出荷時設定に戻す	193
Micro QR コードを有効化/無効化	193
Micro QR コードの長さを設定	194
Aztec	195
工場出荷時設定に戻す	195
Aztec コードを有効化/無効化	195
Aztec コードの長さを設定	196
文字エンコード	197
Aztec ECI 出力	197
データマトリックス	198
工場出荷時設定に戻す	198
データマトリックスを有効化/無効化	198
データマトリックスの長さを設定	199
データマトリックスツインコード	200
長方形バーコード	201
文字エンコード	201
データマトリックス ECI 出力	202
第 11 章 データフォーマット	237
概要	237
データフォーマットを追加	237
バーコードによるプログラミング	237
シリアルコマンドによるプログラミング	240
データフォーマットを有効化/無効化	241
非適合エラー通知ブザー	242
データフォーマット選択	243
シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え	244
データフォーマットをクリア	244
データフォーマットをクエリ	245

フォーマッタコマンドタイプ 6.....	246
送信コマンド.....	246
移動コマンド.....	250
検索コマンド.....	251
その他のコマンド.....	254
第 12 章 プリフィックス&サフィックス	259
概要.....	259
グローバル設定.....	260
全てのプリフィックスとサフィックスを有効化/無効化.....	260
プリフィックスシーケンス.....	260
カスタムプリフィックス.....	261
カスタムプリフィックスを有効化/無効化.....	261
カスタムプリフィックスを設定.....	261
AIM ID プリフィックス.....	262
Code ID プリフィックス.....	263
全てのデフォルトの Code ID を復元.....	263
Code ID を変更.....	263
カスタムサフィックス.....	269
カスタムサフィックスを有効化/無効化.....	269
カスタムサフィックスを設定.....	269
データパッキング.....	270
概要.....	270
データパッキングオプション.....	270
ストップキャラクタサフィックス.....	272
ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化.....	272
ストップキャラクタサフィックスを設定.....	272
第 13 章 プログラミングコマンド.....	274
プログラミングコマンドの使用.....	274
クエリコマンド.....	274
コマンド構文.....	274
レスポンス.....	275
実例.....	275

バーコード読み取りのオン/オフ	276
ブザー音を設定	276
グッドリード LED をオン	277
イルミネーション LED をオン	277
エイマーをオン	278
第 14 章 バッチプログラミング	279
概要	279
バッチコマンドを作成	280
バッチバーコードを作成	280
バッチバーコードを使用	281
付録	282
英数字バーコード	282
バーコードを保存/キャンセル	285
工場出荷時設定表(ST.T12.H4)	286
AIM ID 表(V2022.6)	291
Code ID 表(V1.00.0)	292
シンボロジーID 表(V1.00.0)	293
ASCII 表	294
Unicode キーボード表	298

はじめに

概要

この取扱説明書では NLS-N1 OEM スキャンエンジン（以下、「N1」または「スキャンエンジン」）の設置、光学的仕様、電気的仕様に加え、設定方法と使用法を詳しく説明します。

各章紹介


- ◇ 第1章 使用開始 : N1 の一般的な説明です。
- ◇ 第2章 スキャンエンジン取付 : 取付に関する情報、コネクタ、ケーブル、ESD、環境への配慮など、スキャンエンジンの取付方法を説明します。
- ◇ 第3章 光学的仕様 : 光学的仕様とイルミネーションのパラメータを説明します。
- ◇ 第4章 電気的仕様 : スキャンエンジンの電気的特徴とタイミングシーケンスについて説明します。
- ◇ 第5章 外部リファレンス回路 : 外部ドライバ回路の回路図について説明します。
- ◇ 第6章 EasySet : N1 を簡単に設定できる便利なツールを紹介します。
- ◇ 第7章 各種設定 : プログラミングバーコードの使用法と製品情報のクエリについて説明します。
- ◇ 第8章 通信インターフェース : TTL-232 & USB の通信パラメータの設定方法を説明します。
- ◇ 第9章 システム設定 : N1 の一般パラメータの設定方法を説明します。
- ◇ 第10章 シンボロジー : 各種互換性のあるシンボロジー一覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。
- ◇ 第11章 データフォーマット : データフォーマットでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。
- ◇ 第12章 プリフィックス & サフィックス : プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。
- ◇ 第13章 プログラミングコマンド : N1 をホスト機器からのシリアルコマンドで設定する方法を説明します。
- ◇ 第14章 バッチプログラミング : 複雑なプログラミングタスクを一つのバーコードへと統合する方法を説明します。
- ◇ 付録 : 工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。

記号について

- この記号は必要なプロセスの一覧を示しています。

※ この記号は一部のパラメータの注意事項を示しています。

アイコンについて

	このアイコンは説明書を簡単に参照できる補助ツールを示しています。
	このアイコンは使用者が特に注意すべき事項を説明しています。
	このアイコンはスキャンエンジンを簡単に操作、設定できる便利なヒントを示しています。
	このアイコンは操作方法を覚えるのに役立つ実例を示しています。

第1章 使用開始

概要

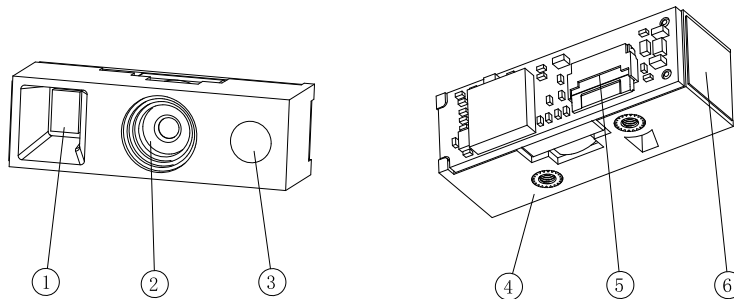
N1 OEM スキャンエンジンは CMOS 画像キャプチャと新大陸自動識別技術有限公司 (Newland) が特許を取得した **UIMG[®]**、コンピュータ制御された画像認識システム SoC を搭載し、紙、磁気カード、スマートフォン画面、LCD 画面に対する高速のスキャンと正確なデコードを誇っています。N1 はハンドヘルドスキャナー、ポータブルスキャナー、固定式スキャナーなど OEM 機器やシステムと簡単に統合できます。

シンボロジー

スキャンエンジンは以下のような印字されたバーコードや画面上のバーコードを読み取ることができます。

1次元	Code 128、EAN-13、EAN-8、Code 39、UPC-A、UPC-E、Codabar、インタリーブド 2 of 5、ITF-6、ITF-14、ISBN、ISSN、Code 93、UCC/EAN-128、GS1 Databar、マトリックス 2 of 5、Code 11、インダストリアル 25、スタンダード 2 of 5、AIM 128、Plessey、MSI-Plessey
2D	PDF417、QR コード、マイクロ QR コード、データマトリックス、Aztec

N1 スキャンエンジン



1. イルミネーション
2. レンズ
3. エイミング
4. マウント穴
5. 外部インターフェース
6. ラベル

図 1-1

第2章 製品取付

概要

本章では一般要求事項、ハウジングデザイン、物理的仕様、光学的仕様の情報を含む **N1** の取付方法を説明します。



注意: スキャンエンジンを取り付け中は画像読み取りレンズに触らないでください。レンズに指紋が付かないように注意してください。



注意: 操作中はイルミネーション LED に触らないでください。
正しくない操作は LED を損傷する恐れがあります。

寸法 (単位: mm)

21.5(幅)×9.0(奥行)×7.0(高さ) (最大)

マウント

以下の図は **N1** の機械マウントの寸法 (単位: mm) を表示しています。

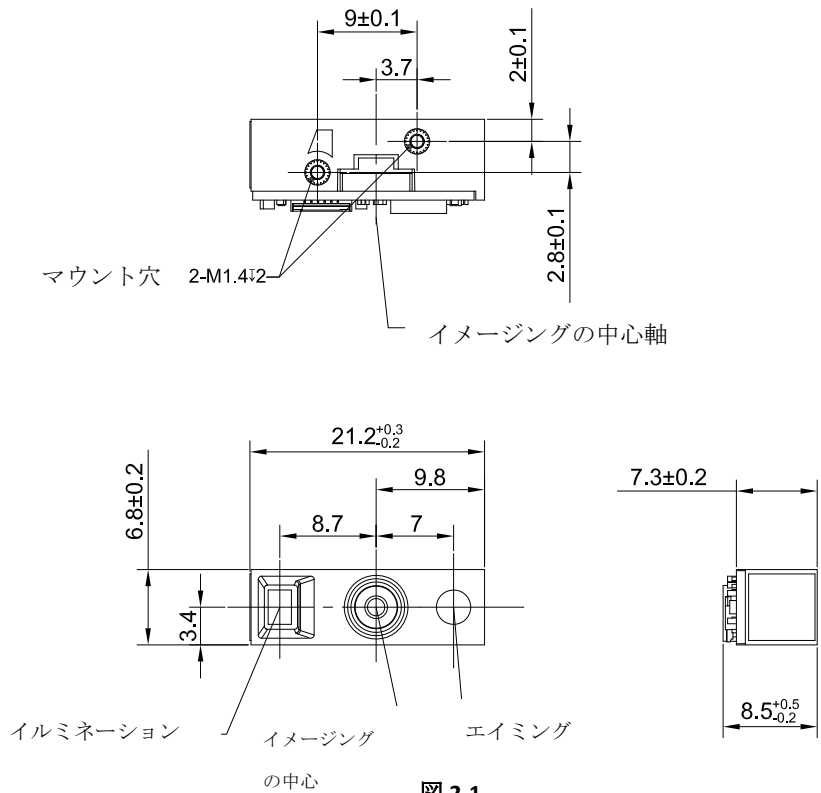


図 2-1

注意: 寸法の許容誤差は $\pm 0.15\text{mm}$ です。

13 ピン FPC コネクタ

N1 の物理的インターフェースは 13 ピン FPC コネクタで構成されています。

- 13 ピン FPC コネクタは TTL-232 または USB のインターフェースとして使用できます。

下図は N1 のコネクタと 1 番ピンの位置を表しています。

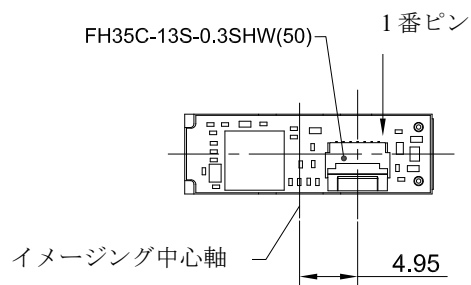


図 2-2

コネクタ仕様

N1は13ピンFPCコネクタを内蔵しています。このコネクタはヒロセ電機製（モデル番号：FH35C-13S-0.3SHW(50)）です。コネクタについて詳しくはこちらのページ（<https://www.hirose.com/product/p/CL0580-2925-2-50>）をご覧ください。

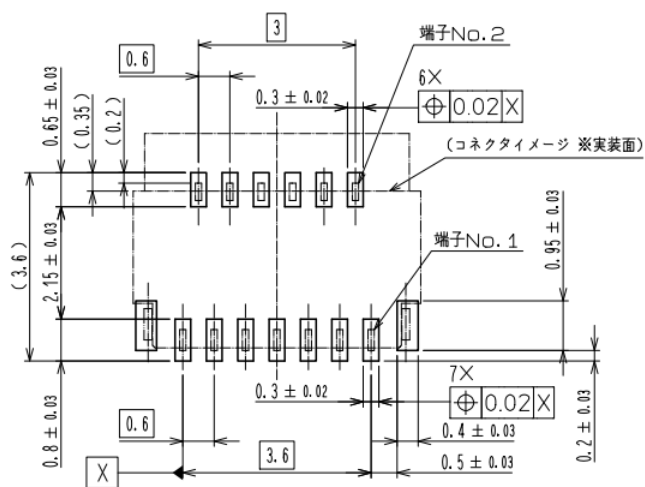


図 2-3

注意:

1. コネクタの安定性向上のため、下方方向への接続を優先してください。
2. FPC ケーブルを差し込む前にコネクタを近づけないでください。
3. コネクタを何回も操作しないようにしてください。

周辺環境

N1 が正常に動作するためには以下の環境要件を満たす必要があります。

表 2-1

動作温度	-20°C～55°C
保管温度	-40°C～70°C
湿度	5%～95% (非結露)

熱に関する注意事項

N1 の電子部品は連続的に使用すると熱を発生します。N1 を連続モードで長時間操作すると CPU、CIS、LED、DC-DC などの温度が上昇する可能性があります。過熱すると画質とスキャン性能が低下する可能性があります。それを考慮して、N1 と統合する場合、以下の注意事項を考慮する必要があります。

- ◇ 設計の時点で空気が循環できるよう十分なスペースの確保。
- ◇ ゴムなど熱絶縁材でN1の包まないようにする。

メンテナンス

- ◇ スキャンウィンドウは常に清潔にしてください。
- ◇ スキャンウィンドウをこすらないでください。
- ◇ 眼鏡拭き用のクロスなど柔らかいクロスでウィンドウを拭いてください。
- ◇ 液体をスキャンウィンドウに吹きかけないでください。
- ◇ 水以外の潜在でスキャンエンジンの他の部品を洗わないでください。

注意: 不適切な管理やメンテナンスによる損傷は**保証の適用外**です。

第3章 光学的仕様

概要

N1にはエイミングLEDとイルミネーションLEDが内蔵されています。

N1の搭載機能

- CMOS画像センサー&レンズ
- LEDイルミネーションシステム
- LEDエイミングシステム

センサー

ピクセル: 640×480 CMOS

フレームレート: 60fps

イルミネーション

N1は補助ライトの白色LEDが付いていますので、完全に真っ暗でもスキャンすることができます。イルミネーションはオンまたはオフにプログラムできます。お客様は必要に応じて外付けのイルミネーションシステムを追加することができます。スペクトル域は可視光線の範囲内に設定してください。

エイマー

ユーザーはN1搭載の赤色LEDのエイマーでスキャンエンジン視野の範囲内にある対象のバーコードに簡単に照準を合わせて、スキャン効率を高めることができます。エイミングパターンはオンとオフを切り替えられます。一般的な利用環境でのスキャンではオンに設定してください。違う素材、強い光、または逆光の環境で利用する場合、実際の状況に応じてオンとオフを切り替えることをおすすめします。

注意:スキャンエンジンがバーコードに近づくと、エイミングの中心とイメージングの中心がずれることがあります。

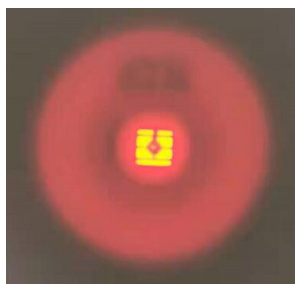


図 3-1

ウィンドウ配置

イルミネーションとエイミングの光線ができるだけ透過して、スキャンエンジンに反射しないようにウィンドウは正しく配置する必要があります（反射するとスキャンエンジンの読み取り性能が低下する可能性があります）。

平行ウィンドウ – 画像エンジンの優先考慮事項です。以下のウィンドウ距離要件を満たす必要があります。

最大距離はエンジンハウジング前面からウィンドウの最も遠い表面までで測定されます。読み取り性能向上のため、エンジンハウジングからウィンドウの最も遠い表面までの距離は、図 3-2 のとおり、必ず $a+b$ ($a+b \leq 3mm$) を超えないように調節します。

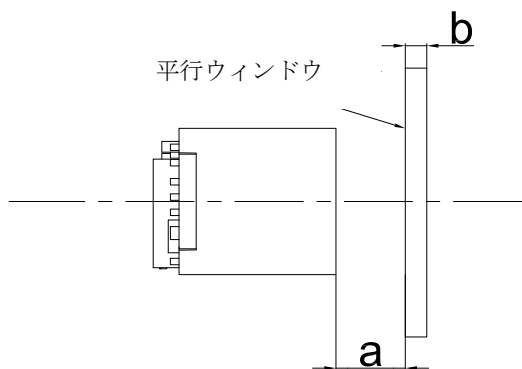


図 3-2

ウィンドウの素材と配色

ウィンドウは透明な素材が必要です。PMMA と光学ガラスを推奨します。表 3-1 指定の仕様以上の素材を選択してください。透明なプラスチックウィンドウを使用中、反射防止膜(AR コート)の使用をおすすめします。

表 3-1

仕様	要件
スペクトル透過率	≥92%
光波長	400-780nm

コーティングと擦り傷防止

ウィンドウのこすり傷でN1の性能は大幅に低下します。耐摩耗性の高いウィンドウ素材やコーティングの使用をおすすめします。

以下は、一般的に使用されている 2 種類のコーティング方法です。

- **反射防止膜:**反射防止膜(AR コート)ウィンドウからスキャンエンジンへの反射を減らすためにウィンドウ表面に使用することができます。ウィンドウ表面の多層 AR コートは反射を 0.5%以下に抑え、光波長が 400-780nm の範囲をカバーするのに効果的です。
- **擦り傷防止コーティング:** 擦り傷防止コーティングは 5H 以上の表面硬度が必要です。コーティングはプラスチック表面に使用して、表面の摩耗と擦り傷への耐性を強化することができます。

ウィンドウの寸法

ウィンドウは、下図のとおり、視野を塞がず、エイミングとイルミネーションのエンベロープを収容できる寸法の確保が必要です。

正面図:

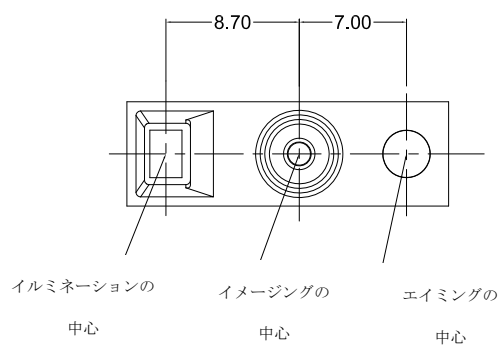
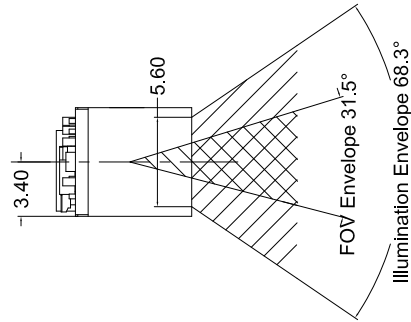


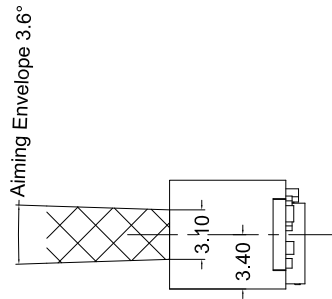
図 3-3

FOV:



FOVエンベロープ 31.5°

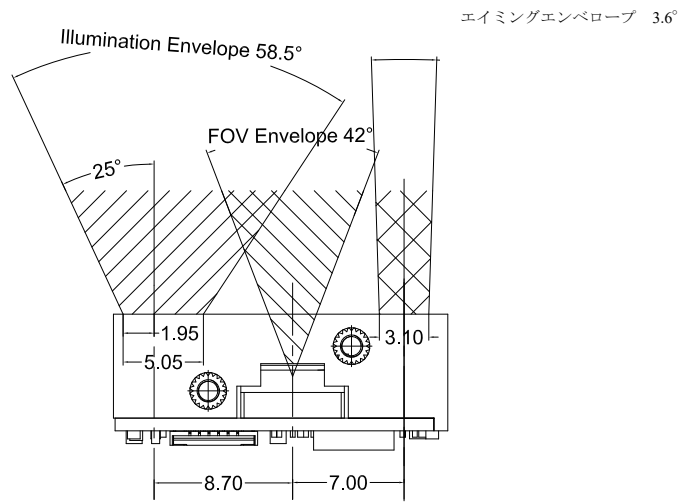
イルミネーションエンベロープ 68.3°



エイミングエンベロープ 3.6°

FOVエンベロープ 42°

イルミネーションエンベロープ 58.5°



エイミングエンベロープ 3.6°

図 3-4

間接照明

N1 は間接照明で性能が向上します。但し、高周波蛍光ランプは性能低下の可能性があります。

目の安全のために

N1 にはレーザーがありません。LED でイルミネーションビームを発光します。LED は十分な明るさがありますが、一般的な利用場面を想定したテストを実施してスキャンエンジンの安全を実証しています。但し、ユーザーはビームを直接見ないでください。

LED コンプライアンス宣言



N1 は LED の安全のため、IEC 62471:2006 に準拠しています。

被写界深度

以下の表は 0lx と 300lx の自然光でテストした被写界深度の一覧です。

表 3-2

間接照明: 0lx の自然光

シンボロジー	最短	最長
EAN-13 (13mil)	60mm	350mm
PDF417 (6.7mil)	50mm	125mm
Code 39 (5mil)	40mm	150mm
データマトリックス (10mil)	45mm	120mm
QR コード (15mil)	30mm	170mm

表 3-3

間接照明: 300lx の自然光

シンボロジー	最短	最長
EAN13 (13mil)	60mm	350mm
PDF417 (6.7mil)	50mm	125mm
Code39 (5mil)	40mm	150mm
データマトリックス (10mil)	45mm	120mm
QR コード (15mil)	30mm	170mm

第4章 電氣的仕様

電源

N1 を正しく接続するまで電源を入れないでください。コネクタにケーブルを接続する前またはコネクタからケーブルを抜く前に電源がオフになっていることを必ず確認してください。ホットプラグはスキャンエンジンを損傷する可能性があります。

不安定な電源、急激な電圧の降下、不必要に短い電源のオンオフの間隔はスキャンエンジンの性能が不安定になる可能性があります。電源をオフにした後、すぐに電源をオンにしないでください。

※ 設計中、ユーザーは N1 の入力電源を必ず完全にデカップリングしてください。基板にはんだ付けされているコネクタの電源入力ピンのそばに 22 μ F と 100nF X5R、または X7R のキャパシタを設置することをおすすめします。

※ N1 の電源を再びオンにする前に、入力電源が 0.5V 以下まで低下していることを確認してください。

リップルノイズ

画質を保つためには、電源は低リップルノイズである必要があります。

適切なリップルノイズの電圧 (ピークトゥピーク電圧) : $\leq 100\text{mV}$

インターフェースのピン配置

以下の表は 13 ピン FPC コネクタの機能リストです。

表 4-1

PIN#	信号	I/O	状態	機能	備考
1	GND	-	-	電源接地	
2	EXT_TRIG#	I	プルアップ	信号入力トリガー	100k プルアップ (注意 1 参照)
3	EXT_RST#	I	プルアップ	信号入力をリセット	4.7k プルアップ (注意 2 参照)
4	EXT_DSIF	O	プルダウン	グッドリード LED 出力	100k プルダウン (注意 3 参照)
5	EXT_BUZ	O	プルダウン	ブザー出力	10k プルダウン (注意 4 参照)
6	EXT_LIGHT	O	未接続	外部イルミネーション制御信号	ピンを使用しない場合、 未接続のままにすること (注意 5 参照)
7	USB_D+	-	-	USB_D+ 信号	
8	USB_D-	-	-	USB_D- 信号	
9	TTL232_TX	O	-	TTL レベル 232 データ送信	
10	TTL232_RX	I	-	TTL レベル 232 データ受信	
11	GND	-	-	電源接地	
12	VCC	-	-	3.3V 電源入力	
13	VCC	-	-	3.3V 電源入力	

※ I=入力、O=出力、od=オープンドレイン

※ 1 nTRIG 信号は MCU ピンから直接発生しないため、他の入出力インターフェースとはレベルの高低が違います。外部制御モジュールを設計する際は、図 4-4 の入出力電圧を参照してください。

外部トリガー信号はレベルトリガーまたはパルストリガーのいずれかになります。

レベルトリガー: トリガーを引くとデコードセッションが有効になります。デコードセッションはバーコードをデコードするかまたはトリガーを離すと終了します。

パルストリガー: トリガーを引いて離すと (パルス幅: 50ms)、スキャンはバーコードをデコードするかまたはデコードセッションタイムアウトが切れると終了します。持続時間はプログラムできます。パラメータの設定方法は、本書 (N1 取扱説明書) をご覧ください。

外部トリガー回路については、第 5 章の「トリガー回路」のセクションをご覧ください。

※ 2 スキャンエンジンをリセットする場合、レベルを 10ms 以下に低く保ってください。ピンを使用しない場合、接続をオフにしてください。

※ 3 この出力信号は外部 LED でグッドリードの状態を表示することができます。

グッドリードが発生すると、nGoodRead ピンは高出力 (初期設定の持続時間: 20ms、ユーザーがプログラム可能) を発生します。グッドリード LED はオン、オフをプログラムすることができます。パラメータの設定方法は、本書 (N1 取扱説明書) をご覧ください。

外部 LED 回路の設計については、第 5 章の「グッドリード LED 回路」のセクションをご覧ください。nGoodRead ピンを使用しない場合は、接続をオフにしてください。

※ 4 この出力信号は外部ブザー回路でユーザーへ電源オンとグッドリードのステータスを示す音声フィードバックを生成することができます。

ブザーの電源オン: 電源をオンにすると、nBEEPER ピンは PWM 出力 (持続時間: 400ms、周波数: 2090Hz、2630Hz、3130Hz、4260Hz)を発生します。パラメータの設定方法は、本書 (N1 取扱説明書) をご覧ください。

グッドリードブザー: グッドリードが発生すると、nBEEPER ピンは高出力 (初期設定の持続時間: 80ms、周波数: 2710Hz) を発生します。ブザーはオン、オフをプログラムすることができます。パラメータの設定方法は、本書 (N1 取扱説明書) をご覧ください。

外部ブザー回路については、第 5 章の「ブザー回路」のセクションをご覧ください。nBEEPER ピンを使用しない場合は、接続をオフにしてください。

※ 5 ピン 6 は外部イルミネーション制御信号です。外部イルミネーション制御回路については、第 5 章の「外部イルミネーション制御回路」のセクションをご覧ください。イルミネーション制御信号ピンを使用しない場合は、接続をオフにしてください。

DC の特徴

操作電圧

表 4-2

T=25°C

パラメータ	内容	最大	標準	最大	単位
VCC	入力電圧	3.14	3.3	3.47	V

動作電流

表 4-3

T=25°C

モード		状態	標準	最大	単位
使用電流	RMS ¹	VCC=3.3V	91.08	150	mA
	PEAK ²		-	300	mA
アイドル電流	RMS ¹		11.8	-	mA
スリープ電流	RMS		-	0.3	mA

1. RMS は安定した動作での電流の RMS 値を示しています。

2. PEAK はデバイスが達するピーク電流を示しています。

I/O 電圧

表 4-4

VCC=3.3 V、GND =0 V、T=25°C

パラメータ	内容	状態	最小	標準	最大	単位
VIL	低レベル入力	EXT_TRIG# ピン除く	-	-	0.8	V
VIH	高レベル入力	EXT_TRIG# ピン除く	2	-	-	V
VIL ⁽¹⁾	低レベル入力	EXT_TRIG# ピンのみ	-	-	2.2 (VDD-1.1)	V
VIH ⁽¹⁾	高レベル入力	EXT_TRIG# ピンのみ	2.9 (VDD-0.4)	-	-	V
VOL	低レベル出力	I _{ol} = 4mA~16mA		-	0.4	V
VOH	高レベル出力	I _{oh} = 4mA~16mA	2.4	-	-	V

注意: EXT_TRIG#の高レベル/低レベルのしきい値は外部 VCC 電圧による影響を受けます。EXT_TRIG# の VIL は VCC-1.1 以下であり、VIH は VCC-0.4 以上が必要です。

タイミングシーケンス

タイミングシーケンスを起動

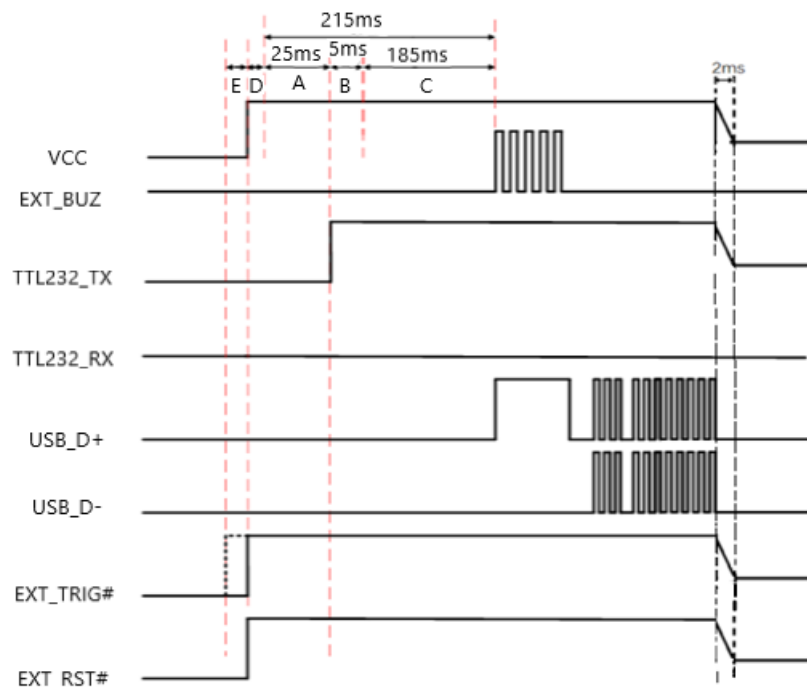


図 4-1

1. 以上のダイアグラムより、スキャンエンジンの起動に **A+B+C** (約 215ms)を消費します。**A** は ブートローダ実行時間 (25ms)、**B** はカーネルのブート時間(5ms)、**C** はデコーダチップの初期化時間 (185ms)です。
2. D はリセット時間 (300us)です。電源オンの間、EXT_RST#信号を操作していない場合、VCC_3V3 に計上される起動時間は 3.3V に達します。
3. 電源をオフにする前に、全ての通信インターフェースのデータが送信済みであることを確認してください。
4. EXT_TRIG#信号で N1 は 100K のプルアップです。この、電源がオンでブートローダが実行されている間、ユーザーは EXT_TRIG#信号を低くすることができません。電源オンの前に、EXT_TRIG# 信号が高く設定する場合、表 4-1 のとおり、持続時間(E=0~1ms)に合わせる必要があります。電源オンの間、機能の異常防止のため、他の信号のレベルは低く保つ必要があります。
5. スキャンエンジンが安定したレベルで動作できるよう、電源のオフと再度オンの間隔は必ず 2 秒を超えるようにしてください。



@SETUPE1
Enter Setup

第5章 外部リファレンス回路

外部回路設計

グッドリード LED 回路

以下の回路は外部 LED を駆動してグッドリードを表示するために使用します。13 ピン FPC コネクタの 4 番ピンから EXT_DSF 信号が発生します。

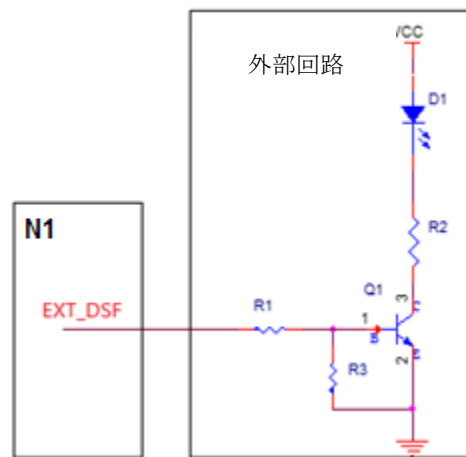


図 5-1



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

ブザー回路

以下の回路は外部ブザーの駆動に使用します。13ピンFPCコネクタの5番ピンからEXT_BUZ信号が発生します。

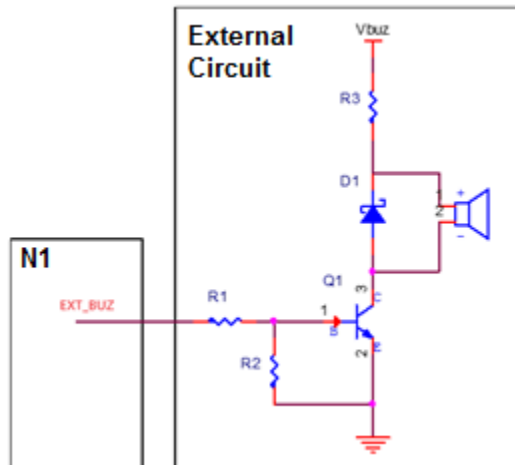


図 5-2

トリガー回路

以下の回路はスキャンエンジンにスキャンとデコードセッションをトリガーする信号の実装に使用します。13ピンFPCコネクタの2番ピンからEXT_TRIG#信号が発生します。

ホストは利用場面に応じて外部回路とその機能を調節することができます。N1は10K-100K、R2は33Ωをおすすめします。C1はメカニカルキーの振動の消去に使用します。一般的に、1nF-10nFセラミックキャパシタがおすすめです。ESD保護が必要な場合、ESDプロテクタは以下のED1のように外部回路へ追加できます。

外部入出力ポートをトリガー出力として使用する場合、レベルの高さを表4-4で示す要件を満たす必要があります。トリガーピンにはデフォルトのフローティング回路またはデフォルトのプルアップ回路の入出力ポートをおすすめします。デフォルトのプルダウン回路の入出力ポートのみ使用する場合、図4-1の電源オン時のシーケンスを参照してください。トリガーしていない場合、ピンが表4-4の高レベル要件を満たす必要があります。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

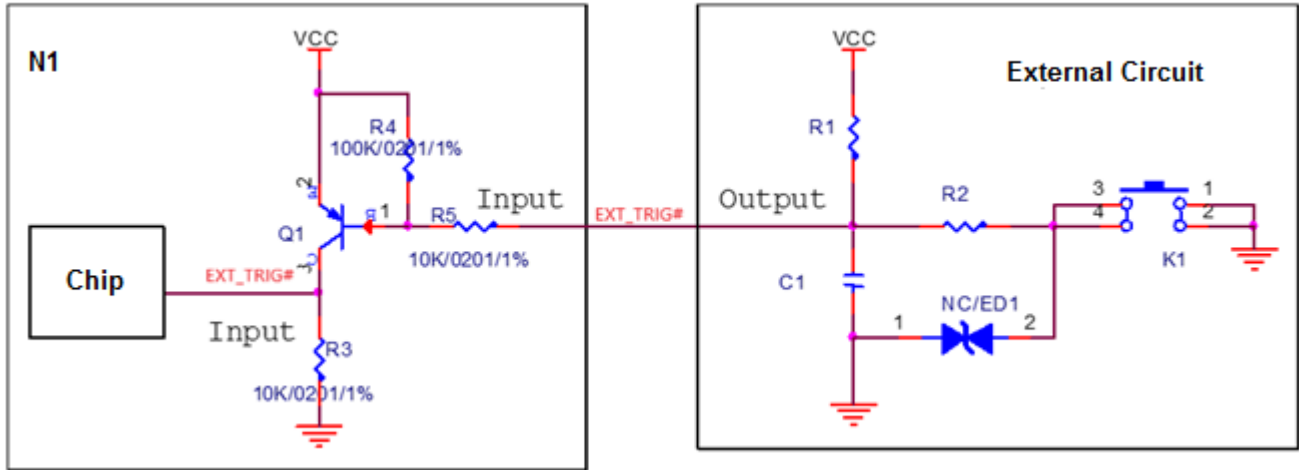


図 5-3

外部イルミネーション制御回路

13ピン FPC コネクタの6番ピン(EXT_LIGHT)は外部イルミネーション制御回路です。I/O は初期化前、フローティング状態です。外部イルミネーションが無効の場合、I/O は入力ピンとして設定されます。有効の場合、I/O は操作モードでは出力ピンになり、スリープモードでは入力ピンになります。外部イルミネーションについては本書（取扱説明書）のソフトウェア設定を参照してください。EXT_LIGHT 信号出力から外部イルミネーションまでの持続時間は 100us を超えないようにしてください。

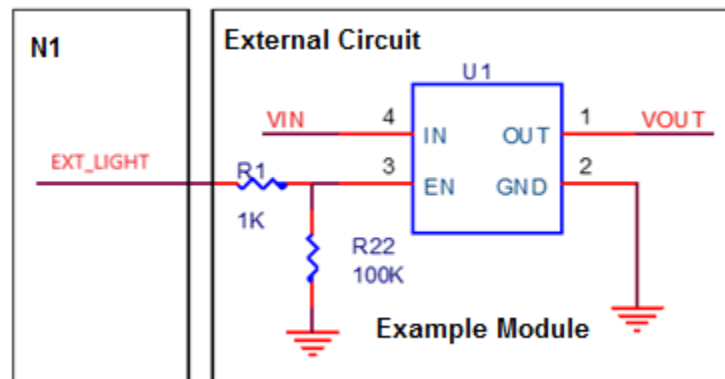


図 5-4



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

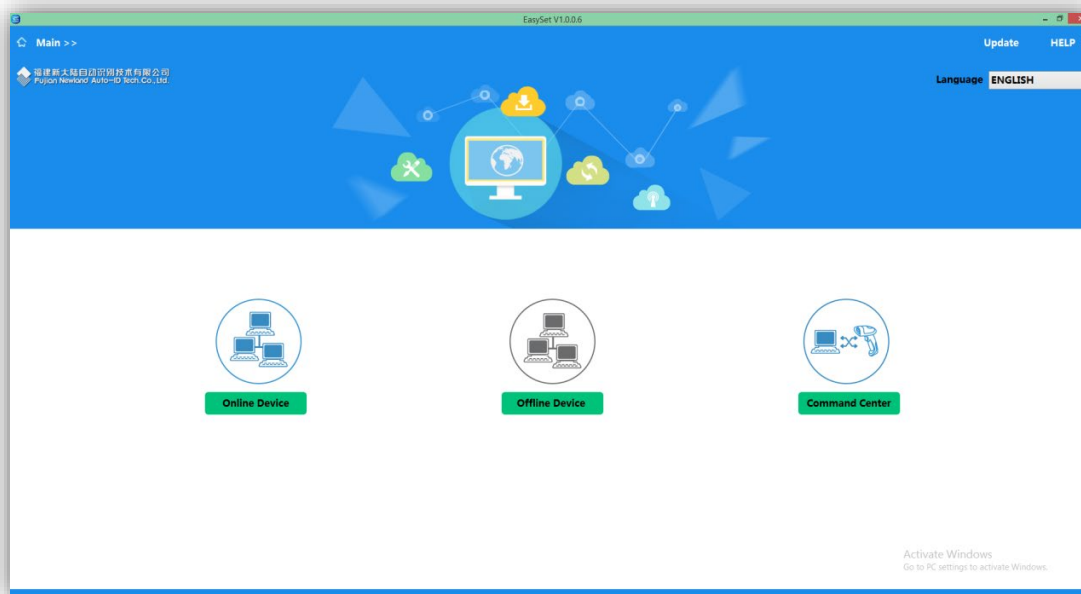
第 6 章 EasySet

福建新大陸自動識別技術有限公司（Newland）が開発した EasySet は、Newland の 1 次元/2 次元バーコード用のハンドヘルスキャナー、固定スキャナー、OEM スキャンエンジン用の設定ツールです。EasySet は主に以下の機能をご用意しております。

- ◇ オンラインデバイスのデバイス情報&設定情報を表示
- ◇ デバイス設定
- ◇ オンラインデバイスのファームウェアアップデート
- ◇ 既存の XML 設定ファイルを読み込み、修正。現在の設定を XML ファイルに保存
- ◇ プログラミングバーコードを PDF または Word ファイルとして作成、印刷、保存
- ◇ オンラインデバイスに保存されている画像をオリジナル画像、BMP、JPG、TIFF の形式で表示、編集、保存
- ◇ オンラインデバイスへのシリアルコマンド送信、デバイスからのレスポンス受信
- ◇ 対応言語: 中国語、英語

EasySet は Microsoft の 32-bit/64-bit の各種オペレーティングシステム（WinXP/Win7/Win 8/Win 8.1/Win 10）に対応しています。

EasySet は以下のインターフェースのいずれかからデバイスに通信することができます。:TTL-232、USB COM ポートエミュレーション (要 UFCOM ドライバー)、USB CDC (要 UFCOM ドライバー)、USB DataPipe (要 UFCOM ドライバー)、USB HID-POS。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

第7章 各種設定

概要

N1 の設定方法は、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、EasySet プログラミングの 3 種類があります。

バーコードプログラミング

N1 はプログラミングバーコードをスキャンして設定することができます。次のセクションでは、ユーザーがプログラム可能な機能/オプションをプログラミングバーコード/コマンドと一緒に説明します。

このプログラミング方法が最も簡単です。しかし、手動でバーコードのスキャンが必要です。その結果、エラーが発生しやすくなります。

コマンドプログラミング

N1 はホスト機器から送信されるシリアルコマンドで設定することもできます。

ユーザーはアプリケーションプログラムを設計して、そのコマンド文字列をスキャンエンジンへ送信し、HR3280 デバイスの設定を実行できます。

EasySet プログラミング

以上の 2 種類の方法に加え、EasySet でも簡単にスキャンエンジンの設定を実行することができます。EasySet は、Newland 製品向けに部分的に設計された Windows ベースの設定ツールであり、ユーザーはデコードしたデータとキャプチャした画像にアクセスして、スキャンエンジンの設定を実行することができます。このツールについて詳しくは、EasySet ユーザーガイドを参照してください。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能



上の図は機能設定用のプログラミングバーコードとプログラミングコマンドの例です。

1.No Case Conversion バーコードです。

2.No Case Conversion コマンドです。

3.機能/オプションの説明です。

** 工場出荷時の設定を表しています。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

プログラミングバーコードの使用

Enter Setup (設定開始) バーコードをスキャンするとスキャンエンジンの設定モードを開始できます。続いてプログラミングバーコードの数字をスキャンして、スキャンエンジンの設定を行うことができます。設定モードを終了する場合、**Exit Setup (設定終了)** バーコードまたは非プログラミングバーコードをスキャンするか、スキャンエンジンを再起動します。



@SETUPE0
設定終了



@SETUPE1
設定開始

プログラミングバーコードのデータ（プログラミングバーコード下の文字など）はホスト機器に送信できます。以下の適切なバーコードをスキャンして、プログラミングバーコードのデータのホスト機器への送信を有効化または無効化できます。



@SETUPT0
プログラミングバーコードデータを送信しない



@SETUPT1
プログラミングバーコードデータを送信する



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンするとスキャンエンジンを工場出荷時設定に戻すことができます。

以下に該当する場合、全てのパラメータを工場出荷時設定に戻す必要がある可能性があります。

- ✧ スキャンエンジンが正しく設定されていないため、バーコードの読み取りに失敗する場合。
- ✧ 以前の設定を忘れてしまい、それによる悪影響を防止したい場合。



@FACDEF
全て工場出荷時設定に戻す

カスタムデフォルト

Restore All Custom Defaults (全てカスタムデフォルトに戻す) バーコードをスキャンすると、すべてのパラメータをカスタムデフォルトにリセットできます。**Save as Custom Defaults** (カスタムデフォルトとして保存) バーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトとして設定できます。

カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。



@CUSSAV
カスタムデフォルトとして保存する



@CUSDEF
全てカスタムデフォルトに戻す



スキャンエンジンを工場出荷状態に戻しても、カスタムデフォルトはスキャンエンジンから削除されません。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

製品情報をクエリ

以下のバーコードをスキャンすると、製品情報（製品名、ファームウェアバージョン、デコーダーバージョン、ハードウェアバージョン、製品シリアル番号、OEM シリアル番号、製造日など）がホスト機器に送信されます。



@QRYSYS
製品情報をクエリ

製品名をクエリ



@QRYPD
製品名をクエリ

ファームウェアバージョンをクエリ



@QRYFW
ファームウェアバージョンをクエリ



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

デコーダーバージョンをクエリ



@QRYDCV

デコーダーバージョンをクエリ

ハードウェアバージョンをクエリ



@QRYHWW

ハードウェアバージョンをクエリ

製品シリアル番号をクエリ



@QRYPSN

製品シリアル番号をクエリ



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

製造日をクエリ



@QRYDAT
製造日をクエリ

OEM シリアル番号をクエリ

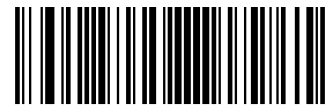


@QRYESN
OEM シリアル番号をクエリ

データフォーマットバージョンをクエリ



@QRYDFM
データフォーマットバージョンをクエリ



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

第 8 章 通信インターフェース

概要

- ◇ シリアル通信インターフェースは通常、スキャンエンジンをホスト機器（PC、POS など）の接続に使用します。ホスト機器に適した通信パラメータの設定が必要です。
- ◇ USB HID キーボード: このスキャンエンジンの送信は、コマンド設定やドライバーを必要とせず USB キーボードの入力としてシミュレーションされます。バーコードデータはバーチャルキーボードで直接入力され、ホスト機器のデータ受信にも便利です。
- ◇ USB CDC: USB-IF で定義される標準的な USB CDC の等級と互換性があり、ホスト機器はシリアルポートと同じ方法でデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。
- ◇ HID POS (POS HID バーコードスキャナー): HID インターフェースがベースです。カスタムドライバーは必要ありません。バーチャルキーボードと従来の TTL-232 インターフェースより送信速度が優れています。
- ◇ IBM SurePOS: IBM (現東芝グローバルコマースソリューション社) 4698 USB スキャナーインターフェース規格に準拠しています。

スキャンエンジンが USB と TTL-232 ポートの両方でホスト機器に接続されている場合、初期設定で USB 接続を選択します。



@SETUPE0
** Exit Setup



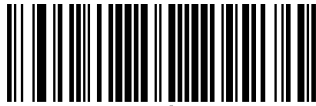
@SETUPE1

Enter Setup

適用される通信設定

この機能がオンの場合、スキャンエンジンはホスト機器に合わせた通信設定を自動的に選択し、SB/シリアルポート経由でホスト機器に接続する際、自動的に USB/シリアル通信をそれぞれ有効化します。

注意:この設定を有効化する前に、スキャンエンジンを再起動する必要があります。



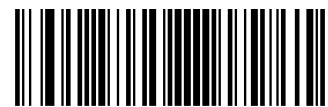
@AUTOUR0

オフ



@AUTOUR1

オン



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

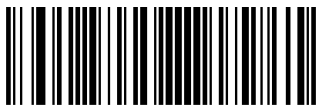
TTL-232 インターフェース

スキャンエンジンをシリアル通信インターフェースでホスト機器(PC、POS など)へ接続する場合、スムーズな通信とデータの正確性を確保すべく、通信パラメータ（ボーレート、パリティチェック、データビット、ストップビットを含む）をホスト機器に合わせる必要があります。



@INTERF0

TTL-232



@SETUPE0

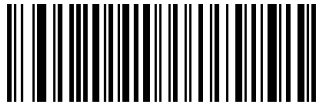
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

ボーレート

ボーレートは毎秒のデータ通信ビット数です。ボーレートはホスト機器の要件に合わせて設定します。



@232BAD8
115200



@232BAD7
57600



@232BAD6
38400



@232BAD5
19200



@232BAD4
14400



@232BAD3
** 9600



@232BAD2
4800



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup



@232BAD1
2400



@232BAD0
1200

パリティチェック

ホスト機器の要件に応じてパリティタイプを設定します。

Odd Parity (奇数パリティ) : データに奇数個の 1 ビットが含まれる場合、パリティビットの値は 0 に設定されます。

Even Parity (偶数パリティ) : データに偶数個の 1 ビットが含まれる場合、パリティビットの値は 0 に設定されます。

None (なし) : パリティビットを必要としない場合を選択します。



@232PAR0
なし



@232PAR1
偶数パリティ



@232PAR2
奇数パリティ



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

データビット

ホスト機器の要件に合わせてデータビット数を設定します。



@232DAT1
7データビット



@232DAT0
8データビット

ストップビット

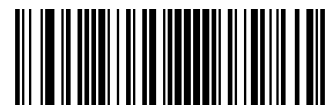
送信された各文字の最後にあるストップビットは、1つの文字の送信が完了し、受信デバイスがシリアルデータストリームの次の文字を受信する準備をすることを示しています。ストップビットの数は、ホストの要件に合わせて設定します。



@232STP0
1ストップビット



@232STP1
2ストップビット



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

USB HID キーボード

スキャンエンジンがホスト機器の USB ポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンして USB HID キーボード機能を有効化することができます。次に、スキャンエンジンからの送信は USB キーボード入力としてシミュレートされます。ホスト機器はバーチャルキーボードでのキーストロークを受け付けます。プラグ&プレイのためドライバーは必要ではありません。



@INTERF3

USB HID キーボード



ホスト機器がキーボード入力を許可している場合、HID キーボード入力の際、他のソフトウェアは必要ありません。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

USB 国別キーボードタイプ

キーボード配置は国によって異なります。初期設定ではアメリカのキーボードに設定されています。



@KBWCTY0
アメリカ (英語)



@KBWCTY2
ブラジル



@KBWCTY4
チェコ



@KBWCTY6
フィンランド (スウェーデン語)



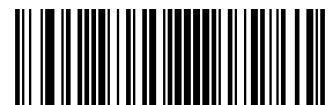
@KBWCTY1
ベルギー



@KBWCTY3
カナダ (フランス語)



@KBWCTY5
デンマーク



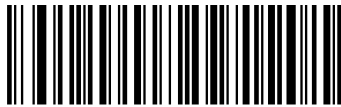
@SETUPE0



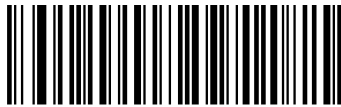
@SETUPE1
Enter Setup



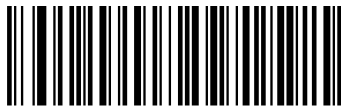
@KBWCTY8
ドイツ/オーストリア



@KBWCTY10
ハンガリー



@KBWCTY12
イタリア



@KBWCTY14
オランダ (オランダ語)



@KBWCTY7
フランス



@KBWCTY9
ギリシャ



@KBWCTY11
イスラエル(ヘブライ語)



@KBWCTY13
ラテンアメリカ/南アメリカ



@SETUPE0
** Exit Setup



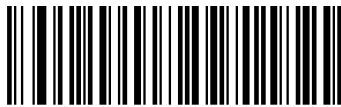
@SETUPE1

Enter Setup



@KBWCTY15

ノルウェー



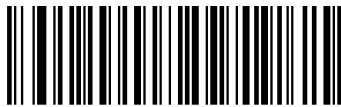
@KBWCTY16

ポーランド



@KBWCTY17

ポルトガル



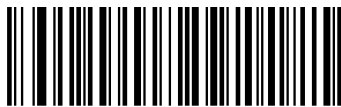
@KBWCTY18

ルーマニア



@KBWCTY19

ロシア



@KBWCTY21

スロバキア



@KBWCTY22

スペイン



@KBWCTY23

スウェーデン



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCTY25
トルコ Fタイプ



@KBWCTY27
イギリス



@KBWCTY24
スイス(ドイツ語)



@KBWCTY26
トルコ Qタイプ



@KBWCTY28
日本



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

不明な文字の警告ブザー

キーボードのレイアウトの違いにより、バーコードデータに含まれる一部の文字が、選択したキーボードで使用できない場合があります。その結果、スキャンエンジンは不明な文字を送信できません。

以下の適切なバーコードを読み取ると、不明な文字を検出したときのブザーを鳴らすか鳴らさないか設定することができます。



@KBWBUC0
不明な文字の警告ブザーを鳴らさない



@KBWBUC1
不明な文字の警告ブザーを鳴らす



フランスのキーボード（国コード：7）が選択され、バーコードデータ「ADF」が処理されているとすると、キーボードは「Đ」（0xD0）の文字を見つけることができず、スキャンエンジンはその文字を無視して次の文字を処理します。

Do Not Beep on Unknown Character（不明な文字を警告しない）：スキャンエンジンはブザーを鳴らさず、ホスト機器は「AF」を受信します。

Beep on Unknown Character（不明な文字を警告する）：スキャンエンジンがブザーを鳴らし、ホスト機器は「AF」を受信します。



Emulate ALT+Keypad ON（Emulate ALT+キーパッドをオン）を選択している場合、**Beep on Unknown Character** は機能しません。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Emulate ALT+キーパッド

Emulate ALT+キーパッドがオンになっていると、どのキーボードタイプを選択しても、ASCII 値が 0x20~0xFF の範囲の文字がテンキーで送信されます。

1. ALT Make
2. キーパッドで任意の文字に対応する数字を入力します。
3. ALT Break

Emulate ALT+Keypad ON (Emulate ALT+キーパッドをオン) を選択後、バーコードを作成したコードページを選択し、アプリケーションソフトが使用するエンコードに応じて **Unicode Encoding (Unicode エンコード)** のオンまたはオフを選択する必要があります。



@KBWALTO
Emulate ALT+キーパッドをオフ



@KBWALT1
Emulate ALT+キーパッドをオン



文字の送信には複数のキーボードエミュレーションが含まれるため、この方法は効率が悪い可能性があります。



Emulate ALT+Keypad Emulate ALT+Keypad が オン、Unicode Encoding が オフ、Code Page 1252 (West European Latin) が選択され、先行ゼロ付きキーボードエミュレーションが Off の場合、バーコードデータ「ADF」(65/208/70) は以下のように送信されます

「A」 - 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」

「D」 -- 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」

「F」 -- 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」



@SETUPE0
** Exit Setup

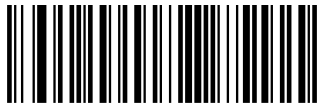


@SETUPE1
Enter Setup

コードページ

コードページとは、文字コードと文字の対応関係を定義したものです。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンしたバーコードはホストプログラムが想定しているコードページとは異なるコードページで作成されていることが考えられます。このような場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードが作成されたコードページを選択してください。PDF417、QR コード、データマトリックスの場合は、コードページの設定のほかに、第 6 章の「文字エンコード」セクションで文字エンコードを設定する必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad** がオンになっている場合のみ有効です。

注意: Code Page 932、Code Page 936、Code Page 950 は選択可能ですが、それぞれ別々のソフトウェアバージョンに対応しています。



@KBWCPG0
Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)



@KBWCPG1
Code Page 1251 (キリル文字)



@KBWCPG2
Code Page 1250 (中央・東ヨーロッパ言語)



@KBWCPG3
Code Page 1253 (ギリシャ語)



@KBWCPG4
Code Page 1254 (トルコ語)



@KBWCPG5
Code Page 1255 (ヘブライ語)



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup



@KBWCPG6

Code Page 1256 (アラビア語)



@KBWCPG8

Code Page 1258 (ベトナム語)



@KBWCPG10

Code Page 950 (繁体字中国語、Big5)



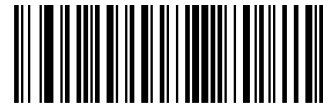
@KBWCPG12

Code Page 932 (日本語、Shift-JIS)



@KBWCPG7

Code Page 1257 (バルト語)



@KBWCPG9

Code Page 936 (簡体字中国語、GB2312、GBK)



@KBWCPG11

Code Page 874 (タイ語)



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

Unicode エンコード

ホストプログラムによっては、受信したバーコードデータの処理のため、異なる文字エンコードを使用する場合があります。例えば、Microsoft Office Word は Unicode エンコードを使用しているため、**Unicode Encoding (Unicode エンコード)** をオンにする必要がありますが、Microsoft Office Excel や Notepad は Code Page エンコードを使用しているため、**Unicode Encoding** をオフにする必要があります。この機能は、**Emulate ALT+Keypad** がオンになっている場合のみ有効です。



@KBWCPU0
オフ



@KBWCPU1
オン

先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

この機能をオンにすると、テンキーから送られてくる文字列を、先行ゼロ付き ISO 文字として送信することができます。例えば、ASCII A は「ALT MAKE」 0065 「ALT BREAK」として送信されます。この機能は、**Emulate ALT+Keypad** が有効な場合のみ使用できます。



@KBWALZ1
オン



@KBWALZ0
オフ



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

ファンクションキーマッピング

Ctrl+ASCII Mode を選択すると、制御文字 (0x00~0x1F) が ASCII シーケンスとして送信されます。



@KBWFKM0
無効化



@KBWFKM1
Ctrl+ASCII モード



@KBWFKM2
Alt+Keypad モード



Ctrl+ASCII Mode が選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定になっている場合、バーコードデータ「A<HT>(例：水平タブ)F」(0x41/0x09/0x46)が以下のように送信されます。

「A」 - キーストローク 「A」

<HT> - 「Ctrl Make」 + キーストローク 「I」 + 「Ctrl Break」

「F」 - キーストローク 「F」

一部のテキストエディタでは、「Ctrl I」はイタリックに変換を意味します。そのため、「AF」として出力される可能性があります。

Alt+Keypad Mode が選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定である場合、上記のデータは以下のように送信されます。

「A」 - キーストローク 「A」

<HT>- 「Alt Make」 + キーストローク 「009」 + 「Alt Break」

「F」 - キーストローク 「F」



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表

ASCII 制御文字略号	ASCII コード(HEX 値)	ファンクションキーマッピング無効化	Ctrl+ASCII
NUL	00	Null	Ctrl+@
SOH	01	キーパッド入力	Ctrl+A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX	03	ALT	Ctrl+C
EOT	04	Null	Ctrl+D
ENQ	05	CTRL	Ctrl+E
ACK	06	Null	Ctrl+F
BEL	07	Enter	Ctrl+G
BS	08	左矢印	Ctrl+H
HT	09	水平タブ	Ctrl+I
LF	0A	下矢印	Ctrl+J
VT	0B	垂直タブ	Ctrl+K
FF	0C	Delete	Ctrl+L
CR	0D	Enter	Ctrl+M
SO	0E	Insert	Ctrl+N
SI	0F	Esc	Ctrl+O
DLE	10	F11	Ctrl+P
DC1	11	Home	Ctrl+Q
DC2	12	Print Screen	Ctrl+R
DC3	13	Backspace	Ctrl+S
DC4	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK	15	F12	Ctrl+U
SYN	16	F1	Ctrl+V
ETB	17	F2	Ctrl+W
CAN	18	F3	Ctrl+X
EM	19	F4	Ctrl+Y
SUB	1A	F5	Ctrl+Z
ESC	1B	F6	Ctrl+[
FS	1C	F7	Ctrl+\
GS	1D	F8	Ctrl+]
RS	1E	F9	Ctrl+6
US	1F	F10	Ctrl+-



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)

上の表の最後の 5 文字 (0x1B~0x1F) は、US キーボード配列にのみ適用されます。次の表は、他の国でこれらの 5 文字に相当するものを示しています。

国名	Ctrl+ASCII					
アメリカ	Ctrl+[Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
ベルギー	Ctrl+[Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
スウェーデン	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=	
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
イタリア		Ctrl+\	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl+-	
イギリス	Ctrl+[Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
スペイン	Ctrl+[Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

キーストローク間のディレイ

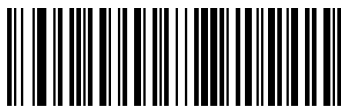
このパラメータはエミュレートしたキーストローク間のディレイを指定します。



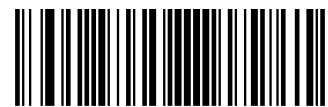
@KBWDLY0
ディレイなし



@KBWDLY40
ディレイ長 (40ms)



@KBWDLY20
ディレイ短 (20ms)



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Caps Lock

Caps Lock On オプションはバーコードデータに含まれる文字を大文字、小文字を変換します。この変換はホスト機器の Caps Lock キーの状態に関係なく発生します。この機能を無効化する場合、ご利用のキーボードに合わせて適切な **Caps Lock Off** バーコードをスキャンします。



@KBWCAP0
Caps Lock OFF (日本語以外のキーボード)



@KBWCAP2
Caps Lock OFF (日本語のキーボード)



@KBWCAP1
Caps Lock ON (日本語以外のキーボード)



@KBWCAP3
Caps Lock ON (日本語のキーボード)



Emulate ALT+Keypad ON/ Convert All to Upper Case/ Convert All to Lower Case は Caps Lock ON を優先します。



Caps Lock ON 機能を選択中は、バーコードデータ「AbC」は「aBc」として送信されます。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

大文字小文字の入れ替え

以下の適切なバーコードをスキャンすると、すべてのバーコードデータを大文字または小文字に変換できます。



@KBWCAS0
変換なし



@KBWCAS1
全て大文字へ変換



@KBWCAS2
全て小文字へ変換



Convert All to Lower Case 機能が有効な場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



Emulate ALT+Keypad ON を選択した場合、**Convert All to Lower Case** および **Convert All to Upper Case** は機能しません。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

テンキーをエミュレート



Do Not Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートしない 1) : 数字 (0~9) の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

Emulate Numeric Keypad 1 (テンキーをエミュレートする 1) : 数字 (0~9) の送信を、テンキーのキーストロークとしてエミュレートします。模擬テンキーの Num Lock の状態は、ホスト機器の Num Lock の状態によって決まります。ホスト機器の Num Lock がオフになっている場合、模擬テンキーの出力は数字キーではなくファンクションキーになります。

Do Not Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートしない 2) : 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

Emulate Numeric Keypad 2 (テンキーをエミュレートする 2) : 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、テンキー上のキーストロークとしてエミュレートされます。



@KBWNUM0
テンキーをエミュレートしない 1



@KBWNUM1
テンキーをエミュレートする 1



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWNCH0
テンキーをエミュレートしない 2



@KBWNCH1
テンキーをエミュレートする 2



Emulate ALT+Keypad ON は **Emulate Numeric Keypad** を優先します。

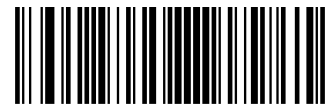


Emulate Numeric Keypad 1 が有効である場合を想定します。

ホスト機器の Num Lock がオンの場合、「A4.5」は「A4.5」として送信されます。

ホスト機器の Num Lock がオフの場合、「A4.5」は「.A」として送信されます。

1. メインキーボードで「A」が送信されます。
2. 「4」がファンクションキー「左へカーソル移動」として送信されます。
3. メインキーボードに「・」が送信されます。
4. 「5」はどのファンクションキーにも対応していないため、送信されません。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

ファストモード

Fast Mode On (ファストモードをオン) を選択中、スキャンエンジンはホスト機器への文字の送信速度が上がります。ホスト機器が文字をドロップする場合、**Fast Mode off** (ファストモードをオフ) に切り替わるか、ポーリングレートの値が大きくなります。



@KBWFAS0
ファストモードをオフ



@KBWFAS1
ファストモードをオン



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

ポーリングレート

このパラメータはUSB キーボードのポーリングレートを指定します。ホスト機器が文字をドロップする場合、ポーリングレートの値が大きくなります。



@KBWPOR0
1ms



@KBWPOR1
2ms



@KBWPOR2
3ms



@KBWPOR3
4ms



@KBWPOR4
5ms



@KBWPOR5
6ms



@KBWPOR6
7ms



@SETUPE0



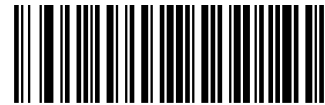
@SETUPE1
Enter Setup



@KBWPOR7
8ms



@KBWPOR8
9ms



@KBWPOR9
10ms



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

USB CDC

スキャンエンジンをホスト機器の USB ポートに接続している場合、the USB CDC 機能でホスト機器はシリアルポートと同じ方法でデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。当社公式サイト (www.newlandaidc.com.) からダウンロードすることができます。



@INTERF8
USB CDC



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

HID POS (POS HID バーコードスキャナー)

概要

新しいアプリケーションプログラムは HID-POS インターフェースをおすすめします。単一の USB レポートにつき 56 字まで送信可能で、キーボードのエミュレーションより効率的です。

特徴:

- ◇ HID ベースでカスタムドライバーが不要。
- ◇ キーボードエミュレーションや従来の TTL-232 インターフェースより効率的な通信。



@INTERF5
USB HID-POS

自分のプログラムでスキャンエンジンへアクセス

CreateFile を使って HID デバイスとしてスキャンエンジンにアクセス後、**ReadFile** を使って、スキャンデータをアプリケーションプログラムへ送信します。**WriteFile** でデータをスキャンエンジンへ送信します。

USB と HID インターフェースの詳細情報はこちら (www.USB.org) をご覧ください。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

スキャンデータの取得

バーコードをデコード後、スキャンエンジンは以下の入力レポートを送信します。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポート ID = 0x02							
1	バーコード長さ							
2-57	デコードされたデータ (1-56)							
58-61	予備							
62	Newland シンボロジー識別子 または N/C: 0x00							
63	-	-	-	-	-	-	-	デコードされ データの続き

コマンドをスキャンエンジンへ送信

この出力レポートはスキャンエンジンへの送信に使用されます。プログラムコマンドは全て使用できます。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポート ID = 0x04							
1	コマンド長さ							
2-63	コマンド (1-62)							





@SETUPE1
Enter Setup

IBM SurePOS (テーブルトップ)



@INTERF6
IBM SurePOS (テーブルトップ)

IBM SurePOS (ハンドヘルド)



@INTERF7
IBM SurePOS (ハンドヘルド)

VID/PID

USB では、VID (ベンダーID) と PID (製品 ID) を用いてデバイスの識別、位置特定を行います。VID は、USB インプリメンターズ・フォーラムによって割り当てられます。Newland の VID は 1EAB (Hex) です。Newland の各製品には、さまざまな PID が使用されています。各 PID には、ベースナンバーとインターフェースタイプ (キーボード、COM ポートなど) が含まれています。

製品	インターフェース	PID (Hex)
N1	USB HID キーボード	1D22
	USB CDC	1D06
	HID POS	1D10
	IBM SurePOS (テーブルトップ)	1D20
	IBM SurePOS(ハンドヘルド)	1D21



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

第9章 スキャン設定

スキャンモード

Level Mode (レベルモード) : トリガーを引くとデコードセッションを開始します。バーコードがデコードされるか、トリガーを離すとデコードセッションを終了します。

Sense Mode (センスモード) : スキャンエンジンは提示されたバーコードを検出するたびにデコードセッションを有効化します。デコードセッションはバーコードがデコードされるかデコードセッションタイムアウトが切れると終了します。

Reread Timeout (再読み取りタイムアウト) は指定時間の間、同じバーコードの不要な読み取りを避けることができます。

Sensitivity (感度) はセンスモード時の画像キャプチャの感度を変更できます。**Image Stabilization Timeout (手振れ補正タイムアウト)** はスキャンエンジンがバーコードを読み取り、次のバーコードを「見た」後、周辺環境に適合する時間を調節します。

Continuous Mode (連続モード) : スキャンエンジンが次から次へと自動的にデコードセッションを開始します。トリガーを押すだけでバーコードの読み取りを中断または再開できます。**Reread Timeout (再読み取りタイムアウト)** は指定時間の間、同じバーコードの不要な読み取りを避けることができます。(注意 : **Continuous Mode** バーコードをスキャンしてこのモードへ切り替える場合、スキャンエンジンは、連続してスキャンする前に 3 秒間スキャンを停止します)。

Pulse Mode (パルスモード) : トリガーを引っ張ってから離すと、バーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトが切れるまでスキャンは有効になります (デコードセッションタイムアウトはトリガーを離れた時点で開始します)。

Batch Mode (バッチモード) : トリガーを引くと複数のデコードセッションのラウンドを有効化します。複数のスキャンのラウンドは、トリガーを離すと終了します。同じバーコードは同じラウンドで読み取られません。



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup



@SCNMOD0

レベルモード



@SCNMOD2

センスモード



@SCNMOD3

連続モード



@SCNMOD4

パルスモード



@SCNMOD7

バッチモード

デコードセッションのタイムアウト

このパラメータはスキャンを試みる間継続するデコードセッションタイムアウトの最大時間を設定します。100ms から 3,600,000ms まで、1ms 単位でプログラム可能です。0 に設定するとタイムアウトは無制限になります。初期設定は 3000ms です。



@ORTSET

デコードセッションタイムアウト



@SETUPE0

** Exit Setup

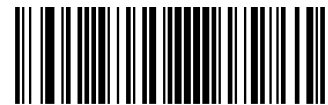


@SETUPE1
Enter Setup



デコードセッションタイムアウトを 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Decode Session Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

手振れ補正タイムアウト（センスモード）

このパラメータは、スキャンエンジンがバーコードをデコード後、他のバーコードを「見る」際に周囲の環境に適応する時間を指定します。0ms から 3,000ms まで、1ms 単位で設定可能です。初期設定は 500ms です。



@SENIST
手振れ補正タイムアウト



手振れ補正タイムアウトを 800ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Image Stabilization Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

感度 (センスモード)

感度はキャプチャされた画像の変化に対するスキャンエンジンの反応の感度を指定します。20 段階から選択できます。この値が小さくなると感度が高くなり、スキャンエンジンをトリガーする画像変更の要件が低くなります。利用環境に応じた適切な感度を選択することができます。この機能はセンスモードのみ有効です。



@SENLVL14
低感度



@SENLVL11
中感度



@SENLVL8
高感度



@SENLVL5
感度を強化



@SENLVL
カスタム感度 (レベル 1-20)



感度をレベル 10 に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom Sensitivity** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

スキャン間隔 (連続モード)

このパラメータはスキャンエンジンが、グッドリード後、スキャン再開までに画像のデコードを停止する時間を設定します。初期設定は 0ms です。



@SCNINV
スキャン間隔 (連続モード)

再読み取りタイムアウト

再読み取りタイムアウトは指定の時間内に同じバーコードを誤ってスキャンすることを防止します。この機能はセンスモードと連続モードのみ適用できます。

Enable Reread Timeout (再読み取りタイムアウトを有効化) : スキャンエンジンが読み取りタイムアウトが時間切れになる前に同じバーコードを再読み取りできなくなります。

Disable Reread Timeout (再読み取りタイムアウトを無効化) : スキャンエンジンが同じバーコードを再読み取りできます。



@RRDENA1
再読み取りタイムアウトを有効化



@RRDENA0
再読み取りタイムアウトを無効化

以下のパラメータは同じバーコードを連続して読み取る際の時間間隔を設定します。0ms から 3,600ms まで、1ms 単位で設定可能です。3000 より大きな値に設定すると、プログラミングバーコードの再読み取りタイムアウトは 3000ms に制限されます。



@RRDDUR
読み取りタイムアウト



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



再読み取りタイムアウトを 1,000ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Reread Timeout** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

再読み取りタイムアウトが時間切れになる前に直前に読み取った同じバーコードをスキャンエンジンが再読み取りしてしまう場合、再読み取りタイムアウトを再設定できます。この機能を有効化する場合、**Reread Timeout Reset On**（再読み取りタイムアウトのリセットをオン）バーコードを設定します。この機能は **Reread Timeout** が有効な場合のみ有効です。



@RRDREN1

再読み取りタイムアウトのリセットをオン



@RRDREN0

再読み取りタイムアウトのリセットをオフ



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

グッドリードのディレイ

グッドリードのディレイはスキャンエンジンが次のバーコードを読み取る最小時間の数値を設定します。このパラメータは 100ms から 3,600,000ms まで、1ms 単位でプログラム可能です。初期設定は 500ms です。以下の適切なバーコードをスキャンしてディレイを有効化または無効化できます。



@GRDENA1
グッドリードのディレイを有効化



@GRDENA0
グッドリードのディレイを無効化

グッドリードのディレイをスキャンする場合、以下のバーコードをスキャンした後、数字バーコードをスキャンしてディレイ(1ms~3,600,000ms)を設定後、付録の **Save** バーコードをスキャンします。



@GRDDUR
グッドリードのディレイ



グッドリードのディレイを 1,000ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Good Read Delay** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

バーコード別スキャン設定

Normal Mode (通常モード) : 紙のバーコードを読み取る際にこのモードを選択します。

Mobile Mode (モバイルモード) : 画面のバーコードを読み取る際にこのモードを選択します。

Barcode Pay Mode (バーコード決済モード) : Alipay、WeChat Pay バーコードなどのバーコードを読み取って取引の決済を行う際にこのモードを選択します。



@EXPLVL0
通常モード



@EXPLVL2
モバイルモード



@EXPLVL5
バーコード決済モード



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

セキュリティレベル

このパラメータはバーコードを正確に読み取るために必要なデコード回数を設定します。セキュリティレベルが高くなるほど、デコードのエラー率は減りますが、デコード速度が遅くなります。この設定は1次元バーコードのみ利用可能です。



@SAFLVL0
セキュリティレベル1



@SAFLVL2
セキュリティレベル3



@SAFLVL1
セキュリティレベル2



@SAFLVL3
セキュリティレベル4



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

デコード範囲

Whole Area Decoding (全体をデコード) : スキャンエンジンが、中心から周りへ視野内の全てのバーコードをデコードしようとし、最初にデコードしたバーコードを送信します。

Specific Area Decoding (特定範囲をデコード) : スキャンエンジンが、特定のデコード範囲内のバーコードをデコードしようとし、最初にデコードしたバーコードを送信します。このオプションではスキャンエンジンは視野を狭めてユーザーが読み取りたいバーコードを確実に読み取ることができます。例えば、複数のバーコードが互いに密接している場合、あらかじめ定義した適切なデコード範囲と共に特定の範囲をデコードすることで読み取りたいバーコードのみを読み取ります。



@CADENA0
全体をデコード



@CADENA1
特定範囲をデコード

Specific Area Decoding 機能が有効化されている場合、スキャンエンジンは事前に定義したデコード範囲と交差するバーコードのみ読み取ります。

初期設定のデコード範囲はスキャンエンジンの視野の上 40%、下 60%、左 40%、右 60%です。

Top of Decoding Area (デコード範囲の上)、**Bottom of Decoding Area (デコード範囲の下)**、**Left of Decoding Area (デコード範囲の左)**、**Right of Decoding Area (デコード範囲の右)** のバーコードと指定のパーセンテージ(0-100)に対応した数字のバーコードでデコード範囲を指定することができます。下の数値は必ず上より大きく、右の数値は必ず左より大きく設定してください。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup



@CADTOP
デコード範囲の上



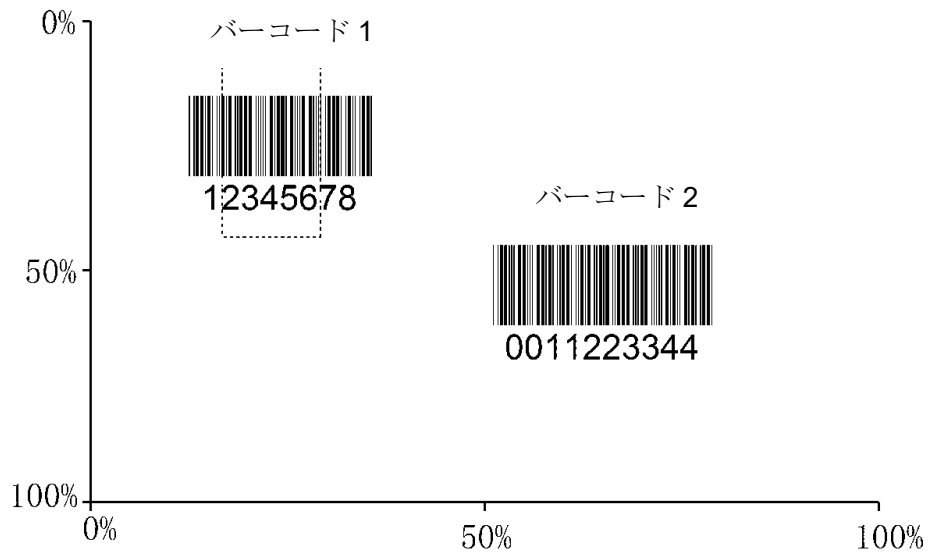
@CADLEF
デコード範囲の左



@CADBOT
デコード範囲の下



@CADRIG
デコード範囲の右



@SETUPE0
** Exit Setup

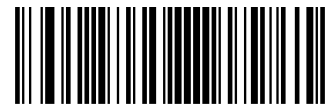


@SETUPE1
Enter Setup



スキャンエンジンのデコード範囲を上 10%、下 45%、左 15%、右 30%に設定して、上図のバーコード 1 のみ読み取る方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Top of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Bottom of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「5」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Top of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
9. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
10. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
11. **Left of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
12. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「0」をスキャンします。
13. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
14. **Right of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
15. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「3」、「0」をスキャンします。
16. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
17. **Left of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
18. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「5」をスキャンします。
19. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
20. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

画像反転



@MIRROR0

反転しない



@MIRROR2

垂直に反転



@MIRROR1

水平に反転



@MIRROR3

水平&垂直に反転

未反転の画像の例



水平に反転の画像の例



垂直に反転の外像の例



水平&垂直に反転の画像の例



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

読み取りエラーメッセージ

トリガーを離す前にグッドリードがされなかった場合、デコードセッションタイムアウトが時間切れの場合、またはスキャンエンジンが **Stop Scanning** (スキャンを停止) コマンド (詳しくは本章の「シリアルトリガーコマンド」のセクションをご覧ください) を受信した場合、以下の適切なバーコードをスキャンして、読み取りエラーメッセージ (ユーザーがプログラム可能) を送信するか選択します。



@NGRENA0
読み取りエラーメッセージをオフ



@NGRENA1
読み取りエラーメッセージをオン

読み取りエラーメッセージを設定

読み取りエラーメッセージは、最大7文字 (0x00~0xFFのHEX値) まで設定できます。読み取りエラーメッセージを設定する際、**Set Bad Read Message** (読み取りエラーメッセージの設定) バーコード、希望する文字のHEX値を表す英数字バーコード、および **Save** バーコードをスキャンします。初期設定は「NG」です。



@NGRSET
読み取りエラーメッセージを設定



読み取りエラーメッセージを「F」(HEX: 0x46)に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Bad Read Message** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

トリガーコマンド

Enable Trigger Commands (トリガーコマンドを有効化) を選択すると、シリアルトリガーコマンドでレベルモード中のスキャンエンジンの有効化または無効化をすることができます。**Start Scanning (スキャンを開始)** コマンド (初期設定: <SOH> T <EOT>、ユーザーがプログラム可能) をレベルモード中のスキャンエンジンに送信するとデコードセッションを有効化できます。デコードセッションはバーコードがデコードされるか、デコードセッションのタイムアウトが時間切れになるか、スキャンエンジンが **Stop Scanning (スキャンを中止)** コマンド (初期設定: <SOH> P <EOT>、ユーザーがプログラム可能)を受信すると終了します。



@SCNTCE0
トリガーコマンドを無効化



@SCNTCE1
トリガーコマンドを有効化

Start Scanning コマンドを修正

Start Scanning コマンドは 1-10 字 (HEX : 0x01~0xFF) で構成されています。このコマンドでは、「?」 (HEX: 0x3F) の文字を最初の文字にすることができません。初期設定の **Start Scanning** コマンドは <SOH> T <EOT> です。



@SCNTCT
Start Scanning コマンドを修正



コマンドを「*T」に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Modify Start Scanning Command** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「A」、「5」、「4」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Stop Scanning コマンドを修正

Stop Scanning コマンドは 1-10 字 (HEX : 0x01~0xFF) で構成されています。このコマンドでは、「?」 (HEX: 0x3F) の文字を最初の文字にすることができません。初期設定の **Stop Scanning** コマンドは <SOH> P <EOT> です。



@SCNTCP
Stop Scanning コマンドを修正



Stop Scanning コマンドを「*P」に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Modify Stop Scanning Command** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「A」、「5」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

内蔵イルミネーション

2種類のイルミネーションオプションで画像キャプチャ中の発光状態を改善します。

Normal (標準) : 内蔵のイルミネーション LED は画像キャプチャ中にオンになります。

Always On (常にオン) : 内蔵のイルミネーション LED はスキャンエンジンの電源をオンにした後、常にオンになります。

Off (オフ) : スキャンエンジン内蔵のイルミネーションは常にオフになります。



@ILLSCN1
標準



@ILLSCN0
オフ



@ILLSCN2
常にオン



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

エイミング

画像をスキャン/キャプチャ中にスキャンエンジンはエイミングパターンを照射すると、範囲内の指定のバーコードに照準を定めて、デコードが簡単になります。

Normal (標準) : スキャンエンジンはバーコードのスキャン/キャプチャ中のみエイミングパターンを照射します。

Always On (常にオン) : エイミングパターンはスキャンエンジンの電源をオンにした後、常にオンになります。

Off (オフ) : エイミングパターンは常にオフになります。



@AMLENA1
通常



@AMLENA0
オフ



@AMLENA2
常にオン

グッドリード LED

LED はグッドリードの表示のオンとオフを設定できます。



@GRLENA1
** オン



@GRLENA0
オフ



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

グッドリード LED 持続時間

このパラメータはグッドリード LED の次のグッドリードまでの持続時間を設定します。1ms から 10000ms まで、1ms 単位で設定可能です。



@GRLDUR20
短 (20ms)



@GRLDUR120
中 (120ms)



@GRLDUR220
長 (220ms)



@GRLDUR320
延長 (320ms)



@GRLDUR
カスタム (1 - 10000ms)



グッドリード LED 持続時間を 800ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

電源オンブザー

スキャンエンジンは電源を入れるとブザーが鳴るようにプログラムできます。電源オン時のブザーが不要の場合、**Off** バーコードをスキャンしてください。



@PWBENA1
オン



@PWBENA0

グッドリードブザー

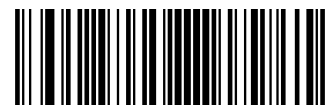
Off バーコードをスキャンするとバーコード読み取り成功を意味するブザーをオフにします。**On** バーコードをスキャンするとオンになります。



@GRBENA1
オン



@GRBENA0
オフ



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

グッドリードブザーの持続時間

このパラメータでは、スキャンエンジンのグッドリードブザーの長さを設定します。20ms から 300ms まで、1ms 単位で設定可能です。



@GRBDUR40
短 (40ms)



@GRBDUR80
中 (80ms)



@GRBDUR120
長 (120ms)



@GRBDUR
カスタム (20 - 300ms)



グッドリードブザーの持続時間を 200ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

グッドリードブザーの周波数

このパラメータは 20Hz から 20,000Hz まで 1Hz 単位で設定できます。



@GRBFRQ800
超低(800Hz)



@GRBFRQ1600
低 (1600Hz)



@GRBFRQ2730
中 (2730Hz)



@GRBFRQ4200
高 (4200Hz)

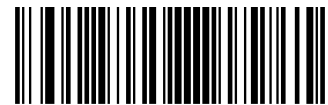


@GRBFRQ
カスタム (20 - 20,000Hz)



グッドリードブザーの周波数を 2,000Hz に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

グッドリードブザーの音量

音量レベルを 20 段階から選択できます。数値が大きくなるほどグッドリードブザーの音量が大きくなります。



@GRBVLL20
大音量



@GRBVLL8
中音量



@GRBVLL2
小音量



@GRBVLL
カスタム音量 (レベル 1-20)



グッドリードブザーの音量をレベル 8 に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Custom Volume** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

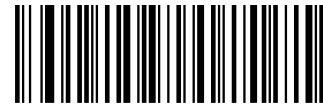
操作モード

オートスリープ

オートスリープは一定時間（ユーザーがプログラム可能）操作または通信されていないとスキャンエンジンが自動的にスリープモードに切り替わります。トリガー信号を送信するとスキャンエンジンが起動します。



@ATSENA0
オートスリープを無効化



@ATSENA1
オートスリープを有効化

以下のパラメータはスキャンエンジンがスリープモードに入る前のアイドル時間（非操作または非通信時間）の長さを設定します。1s から 36000s まで 1s 単位で設定できます。



@ATSDUR
スリープまでのアイドル時間

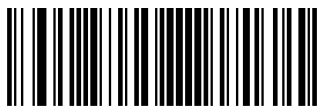


スリープまでのアイドル時間を 1,000s に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Time Period from Idle to Sleep** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

第 10 章 シンボロジー

概要

すべてのシンボロジー（バーコードタイプ）には、独自の属性があります。本章では、スキャンエンジンがさまざまなシンボロジーを識別できるように設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。スキャンエンジンの性能向上のため、ほとんど使用しない機能を無効化することをおすすめします。

グローバル設定

全てのシンボロジーを有効化/無効化

Disable All Symbolologies（全てのシンボロジーを無効化）機能を有効すると、スキャンエンジンはプログラミングバーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。



@ALLENA1
全てのシンボロジーを有効化



@ALLENA0
全てのシンボロジーを無効化

1次元シンボロジーを有効化/無効化



@ALL1DC1
1次元シンボロジーを有効化



@ALL1DC0
1次元シンボロジーを無効化



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

2次元シンボロジーを有効化/無効化



@ALL2DC1
2次元シンボロジーを有効化



@ALL2DC0
2次元シンボロジーを無効化

1次元ツインコード

1次元ツインコードは同じシンボロジーの1次元バーコード、または異なるシンボロジーが縦に平行になっている者を指します。両方のバーコードは類似した規格であり互いに接近している必要があります。

☆ **Single 1D Code Only (単一の1次元コードのみ)** : どちらかの1次元コードを読み取ります。



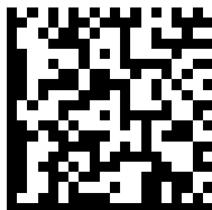
@A1DDOU0
単一の1次元コードのみ

白黒反転のバーコード

通常バーコード: 背景の色が明るく、バーの色が暗いです。

白黒反転バーコード: 背景の色が暗く、バーの色が明るいです。

下図は通常バーコードと白黒反転バーコードの例です。



通常バーコード



白黒反転バーコード



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

白黒反転機能でスキャンエンジンは白黒反転したバーコードを読み取ることができます。

Video Reverse ON（白黒反転をオン）：通常のバーコードと白黒反転バーコードを両方読み取ります。

Video Reverse OFF（白黒反転をオフ）：通常のバーコードのみ読み取ります。

白黒反転をオンにすると、スキャンエンジンはスキャン速度がわずかに落ちます。

注意: この機能は 2 次元バーコードのみ利用できます。



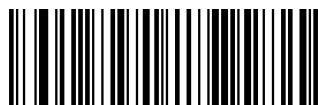
@ALLINV0
白黒反転をオフ



@ALLINV1
白黒反転をオン

GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む

Surround GS1 AI's with Parentheses（GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む） を選択した場合、スキャンされたデータを含むアプリケーション識別子 (AI) は出力メッセージの括弧で囲まれます。



@GS1AIP0
GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲まない



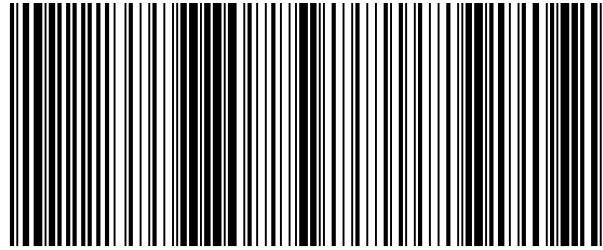
@GS1AIP1
GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



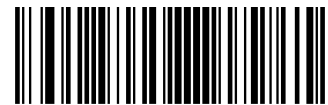
(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

Surround GS1 AI's with Parentheses を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

(01)00614141999996(10)10ABCEDF123456

Do Not Surround GS1 AI's with Parentheses を選択した場合、上記のバーコードの出力内容は以下のとおりです。

01006141419999961010ABCEDF12456



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Code 128

工場出荷時設定に戻す



@128DEF
Code 128 の工場出荷時設定に戻す

Code 128 を有効化/無効化



@128ENA1
Code 128 を有効化



@128ENA0
Code 128 を無効化



スキャンエンジンが **Code 128** バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 128** をスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Code 128 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の **Code 128** バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@128MIN
最小長さを設定



@128MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ **Code 128** バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの **Code 128** バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが **8~12 文字の Code 128** バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信



@128CHK2
Code 128 のチェックキャラクタを送信する



@128CHK1
Code 128 のチェックキャラクタを送信しない

FNC1 出力



@128FNC0
オフ



@128FNC1
オン



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

EAN-8

工場出荷時設定に戻す



@EA8DEF
EAN-8 の工場出荷時設定に戻す

EAN-8 を有効化/無効化



@EA8ENA1
EAN-8 を有効化



@EA8ENA0
EAN-8 を無効化



スキャンエンジンが EAN-8 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable EAN-8** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタを送信

EAN-8 は長さが 8 桁であり、末尾の 1 文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@EA8CHK2
EAN-8 のチェックキャラクタを送信する



@EA8CHK1
EAN-8 のチェックキャラクタを送信しない



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

2桁のアドオンコード

EAN-8 バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



@EA8AD20
2 桁のアドオンコードを無効化



@EA8AD21
2 桁のアドオンコードを有効化



Disable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8 に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは EAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない EAN-8 バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 2 桁のアドオンコードがある EAN-8 バーコードとアドオンコードがない EAN-8 バーコードのどちらもデコードします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

5桁のアドオンコード

EAN-8 バーコードは 5 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。



@EA8AD50
5 桁のアドオンコードを無効化

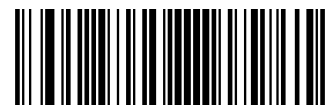


@EA8AD51
5 桁のアドオンコードを有効化



Disable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8 に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは EAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない EAN-8 バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 5 桁のアドオンコードがある EAN-8 バーコードとアドオンコードがない EAN-8 バーコードのどちらもデコードします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

EAN-8 Add-On Code Required (EAN-8 のアドオンコードをリクエストする) を選択すると、スキャンエンジンはアドオンコード付きの EAN-8 バーコードのみ読み取ります。



@EA8REQ0
EAN-8 のアドオンコードをリクエストしない



@EA8REQ1
EAN-8 のアドオンコードをリクエストする

EAN-8 から EAN-13 へ変換

Do Not Convert EAN-8 to EAN-13 (EAN-8 から EAN-13 へ変換しない) : EAN-8 のデコードデータは変換されず、EAN-8 形式で送信されます。



@EA8EXP0
EAN-8 から EAN-13 へ変換しない



@EA8EXP1
EAN-8 から EAN-13 へ変換する



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

EAN-13

工場出荷時設定に戻す



@E13DEF
EAN-13 の工場出荷時設定に戻す

EAN-13 を有効化/無効化



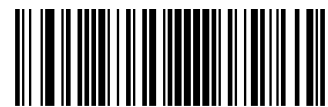
@E13ENA1
EAN-13 を有効化



@E13ENA0
EAN-13 を無効化



スキャンエンジンが EAN-13 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable EAN-13** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信



@E13CHK2
EAN-13 のチェックキャラクタを送信する



@E13CHK1
EAN-13 のチェックキャラクタを送信しない

2桁のアドオンコード

EAN-13 バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



@E13AD20
2 桁のアドオンコードを無効化



@E13AD21
2 桁のアドオンコードを有効化



Disable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13 に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは EAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。

2 桁のアドオンコードがない EAN-13 バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 2 桁のアドオンコードがある EAN-13 バーコードとアドオンコードがない EAN-13 バーコードのどちらもデコードします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

5桁のアドオンコード

EAN-13 バーコードは 5 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-13 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。



5 桁のアドオンコードを無効化



5 桁のアドオンコードを有効化



Disable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13 に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは EAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない EAN-13 バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 5 桁のアドオンコードがある EAN-13 バーコードとアドオンコードがない EAN-13 バーコードのどちらも読み取ります。





@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

EAN-13 Add-On Code Required (EAN-13 のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャンエンジンはアドオンコード付きの EAN-13 バーコードのみ読み取ります。



@E13REQ0
EAN-13 のアドオンコードをリクエストする



@E13REQ1
EAN-13 のアドオンコードをリクエストしない

290 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「290」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) をリクエストするようにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする) : EAN-13 バーコードが全て「290」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードは「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E132900
アドオンコードをリクエストしない



@E132901
アドオンコードをリクエストする

378/379 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「378」または「379」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) をリクエストするよ



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

うにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする) :EAN-13 バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E133780

アドオンコードをリクエストしない



@E133781

アドオンコードをリクエストする

414/419 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「414」または「419」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード (2桁または5桁) をリクエストするようにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする) :EAN-13 バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E134140

アドオンコードをリクエストしない



@E134141

アドオンコードをリクエストする



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

434/439 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「434」または「439」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13 バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E134340
アドオンコードをリクエストしない



@E134341
アドオンコードをリクエストする



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

977 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「977」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） :EAN-13 バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139770

アドオンコードをリクエストしない



@E139771

アドオンコードをリクエストする

978 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「978」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） :EAN-13 バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139780

アドオンコードをリクエストしない



@E139781

アドオンコードをリクエストする



@SETUPE0



@SETUPE1

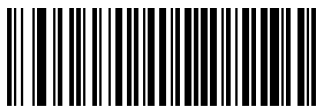
Enter Setup

979 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「979」で始まる EAN-13 バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャンエンジンをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする） : EAN-13 バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの EAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない） : **Require Add-On Code** を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code** をスキャンします。EAN-13 バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



@E139790

アドオンコードをリクエストしない



@E139791

アドオンコードをリクエストする



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

UPC-E

工場出荷時設定に戻す



@UPEDEF
UPC-E の工場出荷時設定に戻す

UPC-E を有効化/無効化



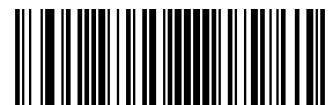
@UPEENA1
UPC-E を有効化



@UPEENA0
UPC-E を無効化



スキャンエンジンが UPC-E バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable UPC-E** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタを送信

UPC-E は長さが 8 桁であり、末尾の 1 文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPECHK2

UPC-E のチェックキャラクタを送信する



@UPECHK1

UPC-E のチェックキャラクタを送信しない

2 桁のアドオンコード

UPC-E バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所
が UPC-E バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

2 桁のアドオンコードを無効化



@UPEAD21

2 桁のアドオンコードを有効化



Disable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを無効化) : UPC-E に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは UPC-E バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。

2 桁のアドオンコードがない UPC-E バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 2 桁のアドオンコードがある UPC-E バーコードとアドオンコードがない UPC-E バーコードのどちらもデコードします。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

5桁のアドオンコード

UPC-E バーコードは 5 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-E バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。



@UPEAD50
5 桁のアドオンコードを無効化



@UPEAD51
5 桁のアドオンコードを有効化



Disable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを無効化) : UPC-E に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは UPC-E バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない UPC-E バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 5 桁のアドオンコードがある UPC-E バーコードとアドオンコードがない UPC-E バーコードのどちらもデコードします。

アドオンコードをリクエスト

UPC-E Add-On Code Required (UPC-E のアドオンコードをリクエストする) を選択すると、スキャンエンジンは アドオンコード付きの **UPC-E** バーコードのみ読み取ります。



@UPEREQ0



@UPEREQ1

UPC-E のアドオンコードをリクエストする



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

プリアンブルキャラクタを送信

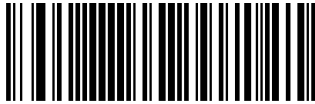
プリアンブルキャラクタ（国コードとシステムキャラクタ）は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。UPC-E プリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード（アメリカは「0」）、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPEPRE1
システムキャラクタ



@UPEPRE0
プリアンブルなし



@UPEPRE2
システムキャラクタ& 国コード

UPC-E から UPC-A へ変換

Do Not Convert UPC-E to UPC-A（UPC-E から UPC-A へ変換しない）：UPC-E のデコードデータは変換されず、UPC-E 形式で送信されます。



@UPEEXP0
UPC-E から UPC-A へ変換しない



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

UPC-A

工場出荷時設定に戻す



@UPADEF
UPC-A の工場出荷時設定に戻す

UPC-A を有効化/無効化



@UPAENA1
UPC-A を有効化



@UPAENA0
UPC-A を無効化



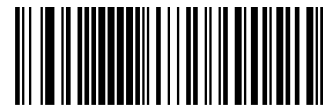
スキャンエンジンが UPC-A バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable UPC-A** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

チェックキャラクタを送信

UPC-A は長さが 13 桁であり、末尾の 1 文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



@UPACHK2
UPC-A のチェックキャラクタを送信する



@UPACHK1
UPC-A のチェックキャラクタを送信しない



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

2桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-A バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



@UPAAD20

2 桁のアドオンコードを無効化



@UPAAD21

2 桁のアドオンコードを有効化



Disable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを無効化) : UPC-A に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは UPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない UPC-A バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code (2 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 2 桁のアドオンコードがある UPC-A バーコードとアドオンコードがない UPC-A バーコードのどちらもデコードします。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

5桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは 5 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-A バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。



@UPAAD50
5 桁のアドオンコードを無効化



@UPAAD51
5 桁のアドオンコードを有効化



Disable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを無効化) : UPC-A に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、スキャンエンジンは UPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない UPC-A バーコードもデコードすることができます。

Enable 5-Digit Add-On Code (5 桁のアドオンコードを有効化) : スキャンエンジンは 5 桁のアドオンコードがある UPC-A バーコードとアドオンコードがない UPC-A バーコードのどちらもデコードします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコードをリクエスト

UPC-A Add-On Code Required (UPC-A のアドオンコードをリクエストする) を選択すると、スキャンエンジンはアドオンコード付きの UPC-A バーコードのみ読み取ります。



@UPAREQ0
UPC-A のアドオンコードをリクエストしない



@UPAREQ1
UPC-A のアドオンコードをリクエストする

プリアンブルキャラクタを送信

プリアンブルキャラクタ (国コードとシステムキャラクタ) は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。UPC-A プリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード (アメリカは「0」)、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。 .



@UPAPRE0
プリアンブルなし



@UPAPRE1
システムキャラクタ



@UPAPRE2
システムキャラクタ & 国コード



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

インタリーブド 2 of 5 (ITF コード)

工場出荷時設定に戻す



@I25DEF

インタリーブド 2 of 5 の工場出荷時設定に戻す

インタリーブド 2 of 5 を有効化/無効化



@I25ENA1

インタリーブド 2 of 5 を有効化

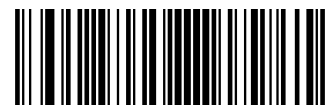


@I25ENA0

インタリーブド 2 of 5 を無効化



スキャンエンジンがインタリーブド 2 of 5 を特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Interleaved 2 of 5** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

インタリーブド 2 of 5 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下のインタリーブド 2 of 5 のみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@I25MIN
最小長さを設定



@I25MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つインタリーブド 2 of 5 しかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインタリーブド 2 of 5 しかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字のインタリーブド 2 of 5 をデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインタリーブド 2 of 5 のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャンエンジンはインタリーブド 2 of 5 をそのまま送信します。

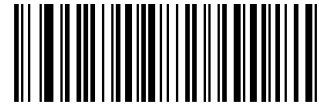
Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、インタリーブド 2 of 5 の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信する) : スキャンエンジンは、インタリーブド 2 of 5 の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

インタリーブド 2 of 5 は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に 0 を追加する必要があります。チェックキャラクタはインタリーブド 2 of 5 作成時に自動的に生成されます。



@I25CHK0
無効化



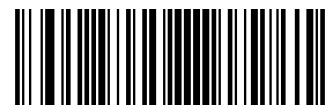
@I25CHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@I25CHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインタリーブド 2 of 5 はデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含むインタリーブド 2 of 5 は読み取られません)。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Febraban

Febraban を有効化/無効化



@I25FBB0
Febraban を無効化



@I25FBB2
Febraban を有効化、拡張する



@I25FBB1
Febraban を有効化、拡張しない

キャラクタあたりのディレイを送信

Transmit Delay per Character (キャラクタあたりのディレイを送信) は拡張および未拡張の Febraban に適用されます。
USB HID キーボードが有効の場合のみ、利用できます。



@FEBSENO
キャラクタあたりのディレイ送信を無効化



@FEBSEN1
キャラクタあたりのディレイ送信を有効化



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

実際の必要性に応じてオプションから適切なディレイを選択できます。



@FEBSDT0
0ms



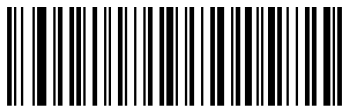
@FEBSDT5
5ms



@FEBSDT10
10ms



@FEBSDT15
15ms



@FEBSDT20
20ms



@FEBSDT25
25ms



@FEBSDT30
30ms



@FEBSDT35
35ms



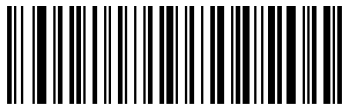
@SETUPE0



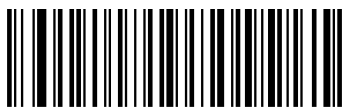
@SETUPE1
Enter Setup



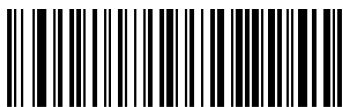
@FEBSDT40
40ms



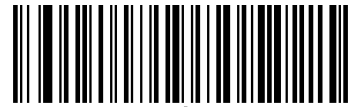
@FEBSDT50
50ms



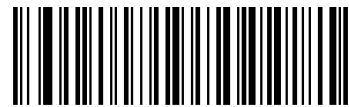
@FEBSDT60
60ms



@FEBSDT70
70ms



@FEBSDT45
45ms



@FEBSDT55
55ms



@FEBSDT65
65ms



@FEBSDT75
75ms



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

12 キャラクタあたりのディレイを送信

Transmit Delay per 12 Characters（12 キャラクタあたりのディレイを送信）は拡張および未拡張の Febraban に適用されま
す。USB HID キーボードが有効の場合のみ、利用できます。



@FEBMEN0

12 キャラクタあたりのディレイ送信を無効化



@FEBMEN1

12 キャラクタあたりのディレイ送信を有効化

実際の必要性に応じてオプションから適切なディレイを選択できます。



@FEBMDT0

0ms



@FEBMDT1

300ms



@FEBMDT2

400ms



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup



@FEBMDT4
600ms



@FEBMDT6
800ms



@FEBMDT3
500ms



@FEBMDT5
700ms



@FEBMDT7
900ms



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

ITF-14

ITF-14 は長さが 14 文字で末尾の文字がチェックキャラクタである特殊なインタリーブド 2 of 5 です。

ITF-14 priority principle(ITF-14 優先原則): 長さが、14 文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド 2 of 5 の場合、ITF-14 設定がインタリーブド 2 of 5 バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@I14DEF
ITF-14 の工場出荷時設定に戻す

ITF-14 を有効化/無効化



@I14ENA0
ITF-14 を無効化



@I14ENA1
ITF-14 を有効化、チェックキャラクタを送信しない



@I14ENA2
ITF-14 を有効化、チェックキャラクタを送信する



ITF-14 優先原則の例: ITF-14 が有効で、インタリーブド 2 of 5 が無効の場合、スキャンエンジンは長さが 14 文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド 2 of 5 バーコードのみデコードします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

ITF-6

ITF-6 は長さが 6 文字で末尾の文字がチェックキャラクタである特殊なインタリーブド 2 of 5 です。ter.

ITF-6 priority principle(ITF-6 優先原則): 長さが、6 文字で末尾の文字がチェックキャラクタのインタリーブド 2 of 5 の場合、ITF-6 設定がインタリーブド 2 of 5 バーコードの設定より優先されます。

工場出荷時設定に戻す



@IT6DEF
ITF-6 の工場出荷時設定に戻す

ITF-6 を有効化/無効化



@IT6ENA0
ITF-6 を無効化



@IT6ENA1
ITF-6 を有効化、チェックキャラクタを送信しない



@IT6ENA2
ITF-6 を有効化、チェックキャラクタを送信する



ITF-6 優先原則の例: ITF-6 が有効で、インタリーブド 2 of 5 が無効の場合、は長さが 6 文字で末尾がチェックキャラクタのインタリーブド 2 of 5 バーコードのみデコードします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

マトリックス 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



@M25DEF

マトリックス 2 of 5 の工場出荷時設定に戻す

マトリックス 2 of 5 を有効化/無効化



@M25ENA1

マトリックス 2 of 5 を有効化



@M25ENA0

マトリックス 2 of 5 を無効化



スキャンエンジンがマトリックス 2 of 5 バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Matrix 2 of 5** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



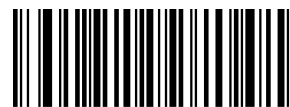
@SETUPE1
Enter Setup

マトリックス 2 of 5 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下のマトリックス 2 of 5 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@M25MIN
最小長さを設定



@M25MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つマトリックス 2 of 5 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのマトリックス 2 of 5 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字のマトリックス 2 of 5 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはマトリックス 2 of 5 のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャンエンジンはマトリックス 2 of 5 をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、マトリックス 2 of 5 の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャンエンジンは、マトリックス 2 of 5 の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

マトリックス 2 of 5 は文字数が必ず偶数になるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の数字の前に 0 を追加する必要があります。チェックキャラクタはマトリックス 2 of 5 作成時に自動的に生成されます。



@M25CHK0
無効化



@M25CHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@M25CHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いマトリックス 2 of 5 バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含むマトリックス 2 of 5 バーコードは読み取られません)。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Code 39

工場出荷時設定に戻す



@C39DEF
Code 39 の工場出荷時設定に戻す

Code 39 を有効化/無効化



@C39ENA1
Code 39 を有効化



@C39ENA0
Code 39 を無効化



スキャンエンジンが Code 39 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 39** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Code 39 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Code 39 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@C39MIN
最小長さを設定



@C39MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ Code 39 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの Code 39 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字の Code 39 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタは Code 39 のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャンエンジンは Code 39 をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、Code 39 の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャンエンジンは、Code 39 の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@C39CHK0
無効化



@C39CHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@C39CHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短い Code 39 バーコードはデコードされません (例えば、Do Not Transmit Check Character After Verification のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含む Code 39 バーコードは読み取られません)



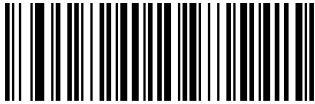
@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信

Code 39 は文字の先頭とストップキャラクタにアスタリスク(*)を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信するか選択することができます。



@C39TSC0
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない



@C39TSC1
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信

Code 39 フルアスキーを有効化/無効化

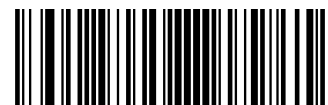
スキャンエンジンは以下の適切なバーコードをスキャンして全てのアスキーキャラクタを特定するよう設定できます。



@C39ASC0
Code 39 フルアスキーを無効化



@C39ASC1
Code 39 フルアスキーを有効化



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Code 32 (イタリア製菓業界用コード)を有効化/無効化

Code 32 は、イタリアの製菓業界で使用されている Code 39 の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32 を有効化または無効化します。このパラメータが機能するためには、Code 39 を有効化し、Code 39 チェックキャラクター認証を無効化する必要があります。



@C39E320
Code 32 を無効化



@C39E321
Code 32 を有効化

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプリフィックス「A」の追加を有効化または無効化します。このパラメータが機能するには、Code 32 を有効化する必要があります。



@C39S320
Code 32 プリフィックスを無効化



@C39S321
Code 32 プリフィックスを有効化



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信

Code 32 が機能するためには、このパラメータを有効化する必要があります。



@C39T320

Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない



@C39T321

Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する

Code 32 チェックキャラクタを送信

Code 32 が機能するためにはこのパラメータを有効化する必要があります。



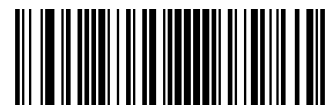
@C39C320

Code 32 のチェックキャラクタを送信しない



@C39C321

Code 32 のチェックキャラクタを送信する



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

Codabar

工場出荷時設定に戻す



@CBADEF

Codabar の工場出荷時設定に戻す

Codabar を有効化/無効化



@CBAENA1

Codabar を有効化



@CBAENA0

Codabar を無効化



スキャンエンジンが Codabar バーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、Enable Codabar バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Codabar の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Codabar バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@CBAMIN
最小長さを設定



@CBAMAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ Codabar バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの Codabar バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字の Codabar バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタは Codabar のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャンエンジンは Codabar をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、Codabar の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャンエンジンは、Codabar の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@CBACHK0
無効化



@CBACHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@CBACHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短い Codabar バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含む Codabar バーコードは読み取られません)。



@SETUPE0
** Exit Setup



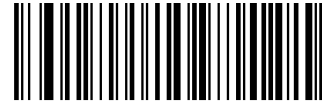
@SETUPE1
Enter Setup

スタート/ストップキャラクタ

以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを設定後、送信するか選択することができます。



@CBATSC0
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない



@CBATSC1
スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信する



@CBASCF0
ABCD/ABCD をスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定



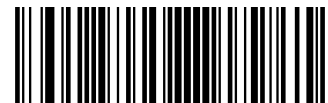
@CBASCF1
ABCD/TN*E をスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定



@CBASCF2
abcd/abcd をスタート/ストップキャラクタに設定



@CBASCF3
abcd/tn*e をスタート/ストップキャラクタに設定



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Code 93

工場出荷時設定に戻す



@C93DEF
Code 93 の工場出荷時設定に戻す

Code 93 を有効化/無効化



@C93ENA1
Code 93 を有効化



@C93ENA0
Code 93 を無効化



スキャンエンジンが Code 93 バーコードを 特定できない場合、Enter Setup バーコードをスキャン後、Enable Code 93 バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Code 93 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Code 93 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@C93MIN
最小長さを設定



@C93MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ Code 93 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの Code 93 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8～12 文字の Code 93 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定に戻す



@GS1DEF
GS1-128 の工場出荷時設定に戻す

GS1-128 を有効化/無効化



@GS1ENA1
GS1-128 を有効化



@GS1ENA0
GS1-128 を無効化



スキャンエンジンが GS1-128 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1-128** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

GS1-128 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の GS1-128 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@GS1MIN
最小長さを設定



@GS1MAX
最大長さを設定

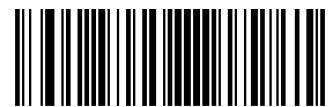


最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ GS1-128 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの GS1-128 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8～12 文字の GS1-128 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信



@GS1CHK2
GS1-128 のチェックキャラクタを送信する



@GS1CHK1
GS1-128 のチェックキャラクタを送信しない

FNC1 出力



@GS1FNC0
Off



@GS1FNC1
On



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

GS1 Databar (RSS)

工場出荷時設定に戻す



@RSSDEF
GS1 Databar の工場出荷時設定に戻す

GS1 Databar を有効化/無効化



@RSSENA1
GS1 Databar を有効化



@RSSENA0
GS1 Databar を無効化



スキャンエンジンが GS1 Databar バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1 Databar** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

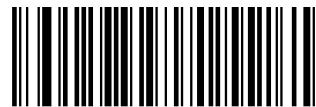


@SETUPE1
Enter Setup

GS1 Databar Omnidirectional (RSS14)を有効化/無効化



@RSSE141
S1 Databar Omnidirectionalr を有効化



@RSSE140
GS1 Databar Omnidirectionalr を無効化



スキャンエンジンが GS1 Databar Omnidirectionalr バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1 Databar Omnidirectionalr** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

GS1 Databar Limited を有効化/無効化



@RSSENL1

Enable GS1 Databar Limited を有効化



@RSSENL0

GS1 Databar Limited を無効化



スキャンエンジンが GS1 Databar Limited バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1 Databar Limited** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

GS1 Databar Expand を有効化/無効化



@RSSENE1

GS1 Databar Expand を有効化



@RSSENE0

GS1 Databar Expand を無効化



スキャンエンジンが GS1 Databar Expand バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable GS1 Databar Expand** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

GS1 Databar の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の GS1 Databar バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@RSSMIN
最小長さを設定



@RSSMAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ S1 Databar バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの S1 Databar バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字の S1 Databar バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

アプリケーション識別子 (01) を送信



@RSSTA1

アプリケーション識別子 (01) を送信する



@RSSTA10

アプリケーション識別子 (01) を送信しない



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Code 11

工場出荷時設定に戻す



@C11DEF
Code 11 の工場出荷時設定に戻す

Code 11 を有効化/無効化



@C11ENA1
Code 11 を有効化



@C11ENA0
Code 11 を無効化



スキャンエンジンが Code 11 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Code 11** をスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Code 11 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Code 11 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@C11MIN
最小長さを設定



@C11MAX
最大長さを設定



スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Code 11 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの Code 11 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8～12 文字の Code 11 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタは Code 11 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) オプションが有効の場合、スキャンエンジンは Code 11 バーコードをそのまま送信します。



@C11CHK0
無効化



@C11CHK1
1 種のチェックキャラクタ、MOD11



@C11CHK2
2 種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11



@C11CHK3
2 種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9



@C11CHK4
1 種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10)
2 種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11(Len>10)



@C11CHK5
1 種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10)
2 種のチェックキャラクタ MOD11/MOD9(Len>10)



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信



@C11TCK0
Code 11 チェックキャラクタを送信しない



@C11TCK1
Code 11 チェックキャラクタを送信する



チェックキャラクタのアルゴリズムと **Do Not Transmit Check Character** (チェックキャラクタを送信しない) オプションを選択すると、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短い Code 11 バーコードはデコードされません (例えば、**One Check Character**、**MOD11**、**Do Not Transmit Check Character** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含む Code 11 は読み取られません)。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

ISBN

工場出荷時設定に戻す



@ISBDEF
ISBN の工場出荷時設定に戻す

ISBN を有効化/無効化



@ISBENA1
ISBN を有効化



@ISBENA0
ISBN を無効化



スキャンエンジンが ISBN バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable ISBN** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。

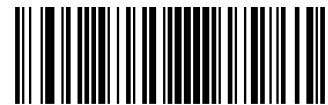
ISBN フォーマットを設定



@ISBT101
ISBN-10



@ISBT100
ISBN-13



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

ISSN

工場出荷時設定に戻す



@ISSDEF

ISSN の工場出荷時設定に戻す

ISSN を有効化/無効化



@ISSENA1

ISSN を有効化



@ISSENA0

ISSN を無効化



スキャンエンジンが ISSN バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable ISSN** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

インダストリアル 25

工場出荷時設定に戻す



@L25DEF
インダストリアル 25 の工場出荷時設定に戻す

インダストリアル 25 を有効化/無効化



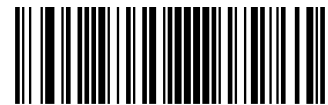
@L25ENA1
インダストリアル 25 を有効化



@L25ENA0
インダストリアル 25 を無効化



スキャンエンジンがインダストリアル 25 バーコードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Industrial 25** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



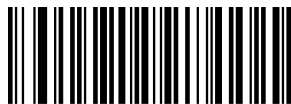
@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

インダストリアル 25 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下のインダストリアル 25 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@L25MIN
最小長さを設定



@L25MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つインダストリアル 25 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインダストリアル 25 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字のインダストリアル 25 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインダストリアル 25 バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

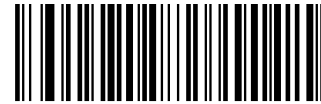
Disable (無効化) : スキャンエンジンはインダストリアル 25 バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、インダストリアル 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャンエンジンは、インダストリアル 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@L25CHK0
無効化



@L25CHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@L25CHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後チェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いインダストリアル 25 バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含むインダストリアル 25 バーコードは読み取られません)。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

スタンダード 25

工場出荷時設定に戻す



@S25DEF
スタンダード 25 の工場出荷時設定に戻す

スタンダード 25 を有効化/無効化



@S25ENA1
スタンダード 25 を有効化



@S25ENA0
スタンダード 25 を無効化



スキャンエンジンがスタンダード 25 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Standard 25** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

スタンダード 25 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下のスタンダード 25 バーコードのみデコードするように設定できます。T
これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@S25MIN
最小長さを設定



@S25MAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つスタンダード 25 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのスタンダード 25 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字のスタンダード 25 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはスタンダード 25 バーコードのオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : スキャンエンジンはスタンダード 25 バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、スタンダード 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャンエンジンは、スタンダード 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@S25CHK0
無効化



@S25CHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@S25CHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (認証後チェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短いスタンダード 25 バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含むスタンダード 25 バーコードは読み取られません)。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Plessey

工場出荷時設定に戻す



@PLYDEF
Plessey の工場出荷時設定に戻す

Plessey を有効化/無効化



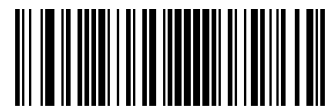
@PLYENA1
Plessey を有効化



@PLYENA0
Plessey を無効化



スキャンエンジンが Plessey バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Plessey** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Plessey の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Plessey バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@PLYMIN
最小長さを設定



@PLYMAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ Plessey バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの Plessey バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8～12 文字の Plessey バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタは Plessey バーコードのオプションであり、最後の 2 文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

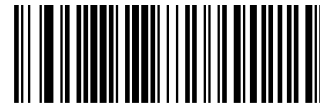
Disable (無効化) : スキャンエンジンはスタンダード 25 バーコードをそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : スキャンエンジンは、Plessey バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信) : スキャンエンジンは、Plessey バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



@PLYCHK0
無効化



@PLYCHK1
検証後にチェックキャラクタを送信しない



@PLYCHK2
検証後にチェックキャラクタを送信する



Do Not Transmit Check Character After Verification (認証後チェックキャラクタを送信しない) オプションが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短い Plessey バーコードはデコードされません (例えば、**Do Not Transmit Check Character After Verification** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含む **Check Character** バーコードは読み取られません)。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

MSI-Plessey

工場出荷時設定に戻す



@MSIDEF
MSI-Plessey の工場出荷時設定に戻す

MSI-Plessey を有効化/無効化



@MSIENA1
MSI-Plessey を有効化



@MSIENA0
MSI-Plessey を無効化



スキャンエンジンが MSI-Plessey バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable MSI-Plessey** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

MSI-Plessey の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の MSI-Plessey バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@MSIMIN
最小長さを設定



@MSIMAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ MSI-Plessey バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの MSI-Plessey バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字の MSI-Plessey バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

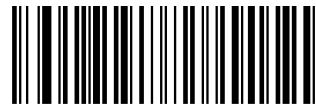
チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタは MSI-Plessey のオプションであり、最後の 1~2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

Disable オプションが有効の場合、スキャンエンジンは MSI-Plessey バーコードをそのまま送信します。



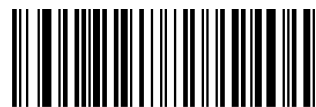
@MSICLK0
無効化



@MSICLK1
1 種のチェックキャラクタ、MOD10



@MSICLK2
2 種のチェックキャラクタ、MOD10/MOD10



@MSICLK3
2 種のチェックキャラクタ、MOD10/MOD11



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信



@MSITCK1
MSI-Plessey チェックキャラクタを送信する



@MSITCK0
MSI-Plessey チェックキャラクタを送信しない



チェックキャラクタのアルゴリズムと **Do Not Transmit Check Character** (チェックキャラクタを送信しない) オプションを選択すると、チェックキャラクタを除外後の設定した最小長さより短い MSI-Plessey バーコードはデコードされません (例えば、**One Check Character**、**MOD10**、**Do Not Transmit Check Character** のオプションが有効で最小長さが 4 に設定されている場合、合計長さが 4 でチェックキャラクタを含む MSI-Plessey は読み取られません)。



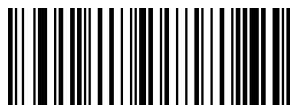
@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

AIM 128

工場出荷時設定に戻す



@AIMDEF
AIM 128 の工場出荷時設定に戻す

AIM 128 を有効化/無効化



@AIMENA1
AIM 128 を有効化



@AIMENA0
AIM 128 を無効化



スキャンエンジンが AIM 128 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable AIM 128** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



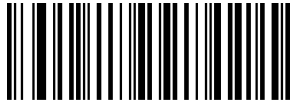
@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

AIM 128 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の AIM 128 バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@AIMMIN
最小長さを設定



@AIMMAX
最大長さを設定



最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャンエンジンは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つ AIM 128 バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さの AIM 128 バーコードしかデコードしません。



スキャンエンジンが 8~12 文字の AIM 128 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信

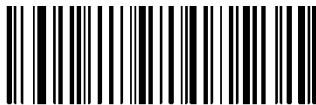


@AIMCHK2
AIM 128 のチェックキャラクタを送信する



@AIMCHK1
AIM 128 のチェックキャラクタを送信しない

FNC1 出力



@AIMFNC0
オフ



@AIMFNC1
オン



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

PDF417

工場出荷時設定に戻す



@PDFDEF
PDF417 の工場出荷時設定に戻す

PDF417 を有効化/無効化



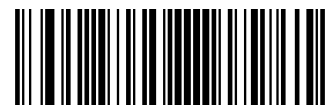
@PDFENA1
PDF417 を有効化



@PDFENA0
PDF417 を無効化



スキャンエンジンが PDF417 バーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable PDF417** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

PDF417 の長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の PDF417 バーコードのみデコードするように設定できます。

これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@PDFMIN
最小長さを設定



@PDFMAX
最大長さを設定



最小長さは最大長さより大きく設定できません。PDF417 バーコードを特定の長さで読み取りたい場合、最小長さと最大長さを読み取りたい長さに設定する必要があります。



スキャンエンジンが 8~12 文字の PDF417 バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

PDF417 ツインコード

PDF417 ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの PDF417 バーコードです。2 つの PDF417 バーコードは必ず通常または白黒反転した PDF417 バーコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

PDF417 ツインコードには 3 種類の読み取りオプションがあります。

- ◇ **Single PDF417 Only (いずれか一方の PDF417 のみ)** : いずれか一方の PDF417 バーコードのみ読み取ります。
- ◇ **Twin PDF417 Only(両方の PDF417 のみ)** : PDF417 バーコードの両方を読み取ります。
- ◇ **Both Single & Twin (いずれか一方&両方)** : 両方の PDF417 バーコードを読み取ります。成功すると、両方の PDF417 バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の PDF417 バーコードのみ送信します。



@PDFDOU0
いずれか一方の PDF417 のみ



@PDFDOU1
両方の PDF417 のみ



@PDFDOU2
いずれか一方&両方

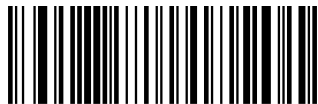


@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

文字エンコード



@PDFENC0
デフォルトの文字エンコード



@PDFENC1
UTF-8

PDF417 ECI 出力



@PDFECI0
PDF417 ECI 出力を無効化



@PDFECI1
PDF417 ECI 出力を有効化



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

QR コード

工場出荷時設定に戻す



@QRCDEF
QR コードの工場出荷時設定に戻す

QR コードを有効化/無効化



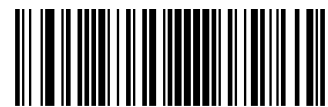
@QRCENA1
QR コードを有効化



@QRCENA0
QR コードを無効化



スキャンエンジンが QR コードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable QR Code** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

QR コードの長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の QR コードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@QRDMIN
最小長さを設定



@QRDMAX
最大長さを設定



最小長さは最大長さより大きく設定できません。QR コードを特定の長さで読み取りたい場合、最小長さと最大長さを読み取りたい長さに設定する必要があります。



スキャンエンジンが 8～12 文字の QR コードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

QR ツインコード

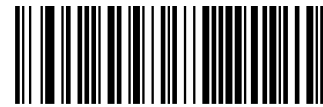
QR ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの QR コードです。2 つの QR コードは必ず通常または白黒反転した QR コードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

QR ツインコードには 3 種類の読み取りオプションがあります。

- ◇ **Single QR Only** (いずれか一方の QR コードのみ) : いずれか一方の QR コードのみ読み取ります。
- ◇ **Twin QR Only(両方の QR コードのみ)** : 両方の QR コードを読み込みます。送信順 : 左 (上) の QR コードから右 (下) へ読み込みます。
- ◇ **Both Single & Twin** (いずれか一方&両方) : 両方の QR コードを読み込みます。成功すると、両方の QR コードを送信し、失敗すると、いずれか一方の QR コードのみ送信します。



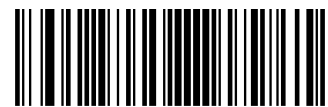
@QRCDU0
いずれか一方の QR コードのみ



@QRCDU1
両方の QR コードのみ



@QRCDU2
いずれか一方&両方



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

文字エンコード



@QRCENC0
デフォルトの文字エンコード



@QRCENC1
UTF-8

QR ECI 出力



@QRCEC10
QR ECI 出力を無効化



@QRCEC11
QR ECI 出力を有効化



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Micro QR コード

工場出荷時設定に戻す



@MQRDEF

Micro QR コードの工場出荷時設定に戻す

Micro QR コードを有効化/無効化



@MQRENA1

Micro QR を有効化



@MQRENA0

Micro QR を無効化



スキャンエンジンが Micro QR コードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Micro QR** をスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Micro QR コードの長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Micro QR コードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@MQRMIN
最小長さを設定



@MQRMAX
最大長さを設定



最小長さは最大長さより大きく設定できません。Micro QR コードを特定の長さで読み取りたい場合、最小長さと最大長さを読み取りたい長さに設定する必要があります。



スキャンエンジンが 8～12 文字の Micro QR コードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Aztec

工場出荷時設定に戻す



@AZTDEF
Aztec コードの工場出荷時設定に戻す

Aztec コードを有効化/無効化



@AZTENA1
Aztec コードを有効化



@AZTENA0
Aztec コードを無効化



スキャンエンジンが Aztec コードを特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Aztec Code** をスキャンして問題を解決する必要があります。



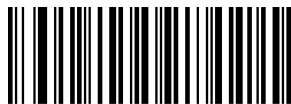
@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

Aztec コードの長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下の Aztec コードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@AZTMIN
最小長さを設定



@AZTMAX
最大長さを設定



最小長さは最大長さより大きく設定できません。Aztec コードを特定の長さで読み取りたい場合、最小長さと最大長さを読み取りたい長さに設定する必要があります。



スキャンエンジンが 8～12 文字の Aztec コードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

文字エンコード



@AZTENC0

デフォルトの文字エンコード



@AZTENC1

UTF-8

Aztec ECI 出力



@AZTECI0

Aztec ECI 出力を無効化



@AZTECI1

Aztec ECI 出力を有効化



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

データマトリックス

工場出荷時設定に戻す



@DMCDEF
データマトリックスの工場出荷時設定に戻す

データマトリックスを有効化/無効化



@DMCENA1
データマトリックスを有効化



@DMCENA0
データマトリックスを無効化



スキャンエンジンがデータマトリックスバーコードを 特定できない場合、**Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Enable Data Matrix** バーコードをスキャンして問題を解決する必要があります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

データマトリックスの長さを設定

スキャンエンジンが最小長さ以上、最大長さ以下のデータマトリックスコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。



@DMCMIN
最小長さを設定



@DMCMAX
最大長さを設定



最小長さは最大長さより大きく設定できません。データマトリックスコードを特定の長さで読み取りたい場合、最小長さと最大長さを読み取りたい長さに設定する必要があります。



スキャンエンジンが 8～12 文字のデータマトリックスコードをデコードするように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set the Minimum Length** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Set the Maximum Length** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0



@SETUPE1
Enter Setup

データマトリックスツインコード

データマトリックスツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つのデータマトリックスコードです。2 つのデータマトリックスコードは必ず通常または白黒反転したデータマトリックスコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

データマトリックスツインコードには 3 種類の読み取りオプションがあります。

- ◇ **Single Data Matrix Only (いずれかのデータマトリックスコードのみ)** : いずれか一方のデータマトリックスコードのみ読み取ります。
- ◇ **Twin Data Matrix Only: (両方のデータマトリックスコードのみ)**: 両方のデータマトリックスコードを読み取ります。読み込み順 : 左 (上) のデータマトリックスコードから右 (下) へ読み込みます。
- ◇ **Both Single & Twin (いずれか一方&両方)** : 両方のデータマトリックスコードを読み込みます。成功すると、両方のデータマトリックスコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のデータマトリックスコードのみ送信します。



@DMCDOU0

いずれかのデータマトリックスコードのみ



@DMCDOU1

両方のデータマトリックスコードのみ



@DMCDOU2

いずれか一方&両方



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

長方形バーコード

データマトリックスコードは2種類の形式があります。

正方形バーコードは縦と横の長さが同じバーコードです（例：10×10、12×12... 144×144）。

長方形バーコードは縦と横の長さが違うバーコードです（例：6×16、6×14...14×22）。



@DMCREC1
長方形バーコードを有効化



@DMCREC0
長方形バーコードを無効化

文字エンコード



@DMCENC0
デフォルトの文字エンコード



@DMCENC1
UTF-8



@SETUPE0



@SETUPE1

Enter Setup

データマトリックス ECI 出力



@DMCEC10

データマトリックス ECI 出力を無効化



@DMCEC11

データマトリックス ECI 出力を有効化



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

第 11 章 データフォーマット

概要

データフォーマットを使用して、スキャンエンジンの出力を変更できます。例えば、データフォーマットを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド（本章の「送信コマンド」の項目を参照）を使用する必要があります。複数のデータフォーマットをスキャンエンジンにプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは 2048 文字です。初期設定では、データフォーマットは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の **Default Data Format（データフォーマットを初期化）** コードをスキャンしてください。



@DFMDEF

データフォーマットを初期化

データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの 4 つのラベル（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）から 1 つを選択し、データフォーマットの適用範囲（バーコードタイプやデータ長さなど）を指定し、フォーマットコマンドを含める必要があります。同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音（ブザー）が鳴ります（非一致エラーブザーが ON の場合）。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの 2 種類があります。

バーコードによるプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「英数字バーコード」の項を参照してください。

Step 1: Enter Setup バーコードをスキャンします。

Step 2: Add Data Format バーコードをスキャンします。



@DFMADD

データフォーマットを追加



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

Step 3 : ラベル (Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 のいずれか) を選択します。

数字のバーコード 0~3 のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットの Format_0~3 のいずれかのラベルを付けます。

Step 4: フォーマッタのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマッタコマンドの種類を指定します。英数字バーコードの 6 を読み取ると、フォーマッタコマンドタイプ 6 が選択されます。詳細は、本章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項目を参照してください。

Step 5: インターフェースのタイプを設定します。

各インターフェースに対応する 999 をスキャンします。

Step 6: シンボロジーID を設定します。

付録の「シンボロジーID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボロジーの ID 番号を確認します。シンボロジーID に該当する 3 つの英数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボロジーのデータフォーマットを作成したい場合は、999 をスキャンします。

Step 7: データの長さを設定します。

このシンボロジーで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す 4 つの英数字バーコードをスキャンします。9999 は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

Step 8: フォーマッタコマンドを入力します。

本章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドが F141 の場合は、F141 をスキャンします。

Step 9: 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの Save バーコードをスキャンしてデータフォーマットを保存します。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

例:フォーマットコマンドタイプ 6 を使用して、Format_0 のデータフォーマットをプログラムします。Code 128 には 10 文字を適用し、すべての文字の後に「A」を付けて送信します。

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。 → セットアップモードに入ります。
2. **Add Data Format** バーコードをスキャンします。 → データフォーマットを追加します。
3. 「0」バーコードをスキャンします。 →ラベルに Format_0 を選択します。
4. 「6」のバーコードをスキャンします。 →フォーマットコマンドタイプ 6 を選択します。
5. 「9」のバーコードを 3 回スキャンします。 → これですべてのインターフェースタイプにします。
6. 「002」のバーコードをスキャンします (Code 128 のみ適用可能)。
7. 「0010」のバーコードをスキャンします (10 文字までの長さのみ適用可能)。
8. 英数字のバーコードをスキャンします。 → F141 「A」に続くすべての文字を送信 (HEX: 41) します。
9. **Save** バーコードをスキャンします。 →データフォーマットを実行します。

プログラミングプロセスを最適化するため、データフォーマットを作成するためのコマンド (例 : @DFMADD069990020010F141;) を入力して、バッチバーコードを生成することもできます。バッチバーコードの使用方法については、第 9 章の「バッチバーコードの使用」を参照してください。

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合、フォーマットは @DFMADD069990029999F141|069990039999F142|069990049999F143;のように、バッチコマンドの中で縦棒 (|) でお互い区切られています。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホスト機器から受信するシリアルコマンド (HEX) でも作成できます。コマンドは全て大文字で入力する必要があります。

構文は以下の要素で構成されています。

Prefix (プリフィックス) : "~<SOH>0000" (HEX: 7E 01 30 30 30)、6 文字。

Storage type (ストレージタイプ) : 「@」 (HEX: 40) または 「#」 (HEX: 23)、1 文字。「@」はスキャンエンジンの電源を切っても再起動しても失われない永久的な設定を意味し、「#」はスキャンエンジンの電源を切ったり再起動したりしたら失われる一時的な設定を意味します。

Add Data Format Command (データフォーマットコマンドを追加) : 「DFMADD」 (HEX: 44 46 4D 41 44 44)、6 文字。

Data format label (データフォーマットラベル) : 「0」 (HEX:30)、 「1」 (HEX:31)、 「2」 (HEX:32)、 「3」 (HEX:33)のうちいずれか 1 文字です。「0」、「1」、「2」、「3」はそれぞれ、Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 を表します。

Formatter command type (フォーマットコマンドタイプ) : 「6」 (HEX: 36)、1 文字。

Interface type (インターフェースタイプ) : 「999」 (HEX: 39 39 39)、3 文字。

シンボロジーID 表 (シンボロジーID) : データフォーマットを適用したいシンボロジーの ID (3 文字)。999 は全てのシンボロジーに対応します。

Data length (データ長さ) : このシンボロジーで許容されるデータの長さ (4 文字)。9999 は全ての長さに対応します。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

Formatter commands (フォーマッタコマンド) : データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマッタのコマンドタイプ 6」の項を参照してください。

Suffix (サフィックス) : “;<ETX>” (HEX: 3B 03)、2 文字。

例：フォーマッタコマンドタイプ 6 を使用して、Format_0 データフォーマットをプログラムすると、Code 128 には 10 文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03

(<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合は、以下のようにシリアルコマンドの縦棒 (|) でフォーマットを区切ります。

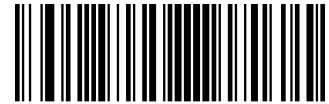
例: ~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141|069990039999F142|069990049999F143;<ETX>X>

<ETX>



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

データフォーマットを有効化/無効化

データフォーマットが無効である場合、有効化したデータフォーマットが無効化されます。



@DFMENA0

データフォーマットを無効化

自分で作成したデータフォーマットにデータを適合させる必要がある場合があります。以下の設定は、作成したデータフォーマットに適用できます。

データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持:データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり（非適合エラー通知ブザーが ON の場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失:データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり（非適合エラー通知ブザーが ON の場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持:データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。

データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失:データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。



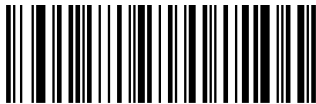
@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@DFMENA1

データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持



@DFMENA2

データフォーマットを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失



@DFMENA3

データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持



@DFMENA4

データフォーマットを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失

非適合エラー通知ブザー

No Non-Match Error Beep (非適合エラー通知ブザー オン) が ON の場合、データフォーマットの要件と一致しないバーコードに遭遇した場合、スキャンエンジンはエラーを通知するブザーを鳴らします。



@DFMTON0

非適合エラー通知ブザーをオフ



@DFMTON1

非適合エラー通知ブザーをオン



@SETUPE0

** Exit Setup

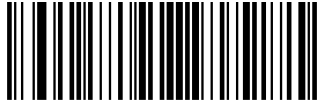


@SETUPE1

Enter Setup

データフォーマット選択

データフォーマッタを有効化後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。



@DFMUSE0

Format_0



@DFMUSE2

Format_2



@DFMUSE1

Format_1



@DFMUSE3

Format_3



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え

シングルスキャンしてデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式でスキャンされ、その後、上で選択した形式に戻ります。

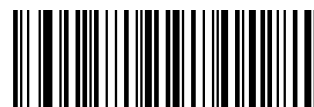
例えば、**Format_3** として保存したデータ形式を使用するようにスキャンエンジンを設定したとします。以下の **Single Scan - Format_1** バーコードをスキャンすると、トリガーを1回引くだけで**Format_1**に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードは、**Format_1**を使用し、その後**Format_3**に戻ります。

注意：この設定は、スキャンエンジンを電源オフ、デバイスを電源オフまたは再起動すると失われます。



@DFMSIN0

シングルスキャンで **Format_0** へ切り替え



@DFMSIN1

シングルスキャンで **Format_1** へ切り替え



@DFMSIN2

シングルスキャンで **Format_2** へ切り替え



@DFMSIN3

シングルスキャンで **Format_3** へ切り替え

データフォーマットをクリア

スキャンエンジンから作成したデータフォーマットを削除する方法は2種類あります。

データフォーマットを1件削除: **Clear One** バーコード、英数字バーコード(0-3)、**Save** バーコードをスキャンします。例えば、**Format_2**を削除する場合、**Clear One** バーコード、英数字バーコード「2」、**Save** バーコードをスキャンします。

データフォーマットを全て削除: **Clear All** バーコードをクリアします。

全てクリア



@DFMCAL



@DFMCLR

1件クリア



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

データフォーマットをクエリ

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従って **Format_0** を追加した場合、**Query Current Data Formats** のバーコードをスキャンすると、以下のような結果が得られます。

Data Format0:069990020010F141;



@DFMQCU

現在のデータフォーマットをクエリ



@DFMQFA

初期設定のデータフォーマットをクエリ



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

フォーマッタコマンドタイプ 6

データフォーマッタの操作では、入力データの文字列に沿って仮想カーソルが移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動、データを選択、置き換え、最終出力の挿入に使用されます。コマンドに含まれる ASCII 文字の HEX 値については、付録の「ASCII 表」を参照してください。

送信コマンド

F1 全ての文字の送信

構文=F1xx (xx: 挿入文字の HEX 値)

現在のカーソル位置から始まり、挿入文字が続く入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。

F2 指定の文字数の送信

構文=F2nxx (nn: 文字数を表す数値 (00~99)、xx: 挿入文字の HEX 値)。

出力メッセージに、挿入文字が続く文字数を含める。現在のカーソル位置から開始し、「nn」文字分、または入力メッセージの最後の文字まで続け、その後に文字「xx」が続きます。

F2 の例: 指定の文字数の送信



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードの最初の 10 文字を送信し、その後にキャリッジリターンを入力します。

コマンド文字列: F2100D

F2 は **Send a number of characters** (指定の文字数の送信) コマンドです。

10 は送信する文字数です。

0D は CR を表す HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890

<CR>

F3 特定文字まで全ての文字を送信

構文=F3ssxx (ss: 特定文字の HEX 値、xx: 挿入文字の HEX 値)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」に続く文字「xx」が続きますが、それは含まれません。カーソルは「ss」の文字まで進みます。

F3 の例: 特定文字まで全ての文字を送信



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードを使って、「D」までのすべての文字と、それに続くキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列: **F3440D**

F3 は **Send all characters up to a particular character** (特定文字まで全ての文字を送信) コマンドです。

44 は「D」を表す HEX 値です。

0D は CR を表す HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890ABC

<CR>

B9 特定文字列まで全ての文字を送信

構文= B9nnns (nnnn: 特定文字列の長さ、s...s: 特定文字列の各文字の HEX 値)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字列「s...s」まで続きます、それは含まれません。カーソルは「s...s」の文字列まで進みます。

B9 の例: 特定文字列まで全ての文字を送信



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードを使用して、「AB」(含まない) までの全ての文字を送信する場合、コマンド文字列は **B900024142** です。

B9 は特定文字列まで全ての文字を送信コマンドです。

0002 は特定文字列の長さです (2 文字)

41 は「A」の HEX 値です (この文字列内の文字)

42 は「B」の HEX 値です (この文字列内の文字)

データは以下のように送信されます。

1234567890

E9 ストップキャラクタを除く全ての文字を送信

構文=E9nn (nn: メッセージの最後に送信しない文字数を示す数値 (00~99))。

現在のカーソル位置から、最後の「nn」文字を除くすべての文字を出力メッセージに含みます。カーソルは、含まれる最後の入力メッセージ文字の 1 つ前の位置へ移動します。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

F4 文字を複数回挿入

構文=F4xxnn (xx: 挿入文字の HEX 値、nn: 送信回数を示す数値 (00-99))。

カーソルを現在の位置に残したまま、出力メッセージに「xx」文字を「nn」回送信します。

E9 と F4 の例: ストップキャラクタを除くすべての文字と、それに続く 2 つのタブを送信



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードの末尾の 8 文字を除くすべての文字と、それに続く 2 つのタブを送信します。

コマンド文字列: **E908F40902**

E9 は Send all but the last characters (ストップキャラクタを除くすべての文字を送信) コマンドです。

08 は無視する末尾の文字数です。

F4 は Insert a character multiple times (複数回文字を挿入) コマンドです。

09 は水平タブを表す HEX 値です。

02 はタブ文字を送信する回数です。

データは 1234567890AB<tab><tab>として出力されます。

B3 シンボロジー名を挿入

カーソルを移動させずに、バーコードのシンボロジー名を出力メッセージに挿入します。

B4 バーコードの長さを挿入

カーソルを移動させずに、バーコードの長さを出力メッセージに挿入します。長さは数字の文字列で表され、先頭のゼロは含まれません。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

B3、B4 の例：シンボロジー名と長さの挿入



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードからのバーコードデータの前に、シンボロジー名と長さを送信します。これらの挿入をスペースで区切ります。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列: **B3F42001B4F42001F10D**

B3 は Insert symbology name (シンボロジー名の挿入) コマンドです。

F4 は Insert a character multiple times (複数回文字を挿入) コマンドです。

20 はスペースの HEX 値です。

01 はスペース文字の送信回数です。

B4 は Insert barcode length (バーコードの長さを挿入) コマンドです。

F4 は Insert a character multiple times コマンドです。

20 はスペースを表す HEX 値です。

01 はスペース文字の送信回数です。

F1 は Send all characters (全ての文字を送信) コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

移動コマンド

F5 カーソルを特定の文字数分を前に移動

構文=F5nn (nn: カーソルを前方に移動させる文字数を示す数値 (00~99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分前にカーソルを移動します。

F5 の例 : カーソルを前方に移動してデータを送信



1234567890ABCDEFGHIJ

カーソルを 3 文字分前方に移動し、残りのバーコードデータを上記のバーコードから送信します。最後にキャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列 : **F503F10D**

F5 は **Move the cursor forward a number of characters** (カーソルを特定の文字数分を前に移動) コマンドです。

03 はカーソルを移動させる文字数です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

4567890ABCDEFGHIJ

<CR>

F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動

構文=F6nn (nn: カーソルを後ろに移動させる文字数を表す数値(00-99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分後ろにカーソルを移動します。

F7 カーソルを先頭に移動

構文=F7

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。

EA カーソルを最後に移動

構文=EA

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

検索コマンド

F8 文字列の前方検索

構文=F8xx (xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字分だけ前方に検索します。

F8 の例：特定の文字の後から始まるバーコードデータを送信



1234567890ABCDEFGHIJ

バーコードで「D」の文字を検索し、「D」を含むその後のデータをすべて送信する。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**F844F10D**

F8 は **Search forward for a character** (文字列の前方検索) コマンドです。

44 は「D」の HEX 値です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

0D は「CR」の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

DEFGHIJ

<CR>

F9 文字の後方検索

構文=F9xx(xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字へ遡って検索します。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

B0 文字列の前方検索

構文=B0nnnnS (nnnn: 文字列の長さ (9999 まで)、S: 文字列内の各文字の ASCII の HEX 値)

カーソルを文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から「S」まで文字列を前方に検索します。

例えば、B0000454657374 は「Test」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を検索します。

B0 の例 : 文字列の後から始まるバーコードデータを送信



1234567890ABCDEFGHIJ

バーコードで「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む後のデータをすべて送信します。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列:**B00003464748F10D**

B0 は **Search forward for a string** (文字列の前方検索) コマンドです。

0003 は文字列の長さ (3 文字) です。

46 は「F」の HEX 値です。

47 は「G」の HEX 値です。

48 は「H」の HEX 値です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

FGHIJ

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

B1 文字列の後方検索

構文=B1nnnnS (nnnn : 文字列の長さ (9999 まで)、S : 文字列中の各文字の ASCII の HEX 値)。

カーソルを文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から文字列「S」を後方一致検索します。

例えば、「B1000454657374」と入力すると、「Test」という4文字の文字列の最初の出現箇所を後方に検索します。

E6 一致しない文字の前方検索

構文=E6xx (xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルを「xx」でない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」でない文字を前方一致検索します。

E6 の例：バーコードデータの先頭のゼロを削除



0000123abc

この例では、先頭がゼロ埋めされたバーコードを示しています。ゼロを無視して、後に続く全てのデータを送信したいとします。E6 は、ゼロではない最初の文字を前方に検索し、その後のすべてのデータを送信し、後にキャリッジリターンが続きます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列：E630F10D

E6 は **Search forward for a non-matching character** コマンドです。

30 は 0 の HEX 値です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます

123abc

<CR>

E7 一致しない文字を後方検索する

構文=E7xx(xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルを「xx」ではない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」ではない文字を後方に検索し、入力メッセージを検索します。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

その他のコマンド

FB 文字数抑止

構文=FBnnxyy...zz (nn : 抑制する文字数を表す数値 (00~15)、xyy..zz : 抑制する文字の HEX 値)

現在のカーソル位置から、他のコマンドでカーソルを進めたときに、最大 15 種類の異なる文字の出現をすべて抑制します。

FB の例 : バーコードデータのスペースを削除



12 34_5*6 78

ここでは、データにスペースが含まれているバーコードの例を示しています。データを送信する前に、スペースを削除できます。
上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列: **FB0120F10D**

FB は **Suppress characters** コマンドです。

01 は抑制する文字の番号でし。

20 はスペースを表す HEX 値です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます : **1234_5*678**

<CR>

E4 文字の置換

構文=E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2 nn : (置換する文字+置換される文字) の合計文字数 xx1 : 置換される文字、xx2 : 置換する文字、zz1、zz2 と続く)。カーソルを移動させずに、出力メッセージの 15 文字までを置き換えることができます。

E4 の例: バーコードデータのゼロと CR の置換



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



12304560780AB

バーコードにホストアプリケーションが含めたくない文字がある場合、E4 コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置換することができます。この例では、上記のバーコードのゼロをキャリッジリターンに置換します。

コマンド文字列: **E402300DF10D**

E4 は **Replace characters (文字の置換)** コマンドです。

02 は置換する文字数に置換される文字数を加えた総文字数 (0 は CR に置換され、合計文字数は 2 文字になります)。

30 は 0 の HEX 値です。

0D は CR の HEX 値(0 を置換する文字)です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます:

123

456

78

AB

<CR>



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

BA 文字列を他の文字列に置換

構文 = BAnnNN₁SS₁NN₂SS₂

nn : 置換する文字列の数。nn=00 または nn>=置換する文字列の出現回数の場合、その文字列の出現回数をすべて置換します。

NN₁: 置換される文字列の長さ、NN₁>0。

SS₁ : 置換される文字列の各文字の ASCII の HEX 値です。

NN₂: 置換される文字列の長さ、NN₂>=0。文字列「SS₁」を NUL に置換する (すなわち、文字列「SS₁」の削除) には、NN₂ を 00 に設定し、SS₂ を省略する必要があります。

SS₂: 置換文字列の各文字の ASCII の HEX 値です。

現在のカーソル位置から、「SS₁」文字列 (長さ「NN₁」) の出現箇所を前方検索し、「SS₁」文字列がすべて置換されるか、カーソルを動かさずに置換回数が「nn」回に達するまで、出力メッセージ内の「SS₂」文字列 (長さ「NN₂」) と置換します。

BA の例: 「23」をバーコードデータの「ABC」と置換



1234Abc23R0123U

ホストアプリケーションが含めたくない文字列がバーコードに存在する場合、BA コマンドでその文字列を別の文字列に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードの「23」を「ABC」に置き換えます。

コマンド文字列: BA0002323303414243F100

BA は **Replace a string with another** (文字列を他の文字列に置換) コマンドです。

00 は置換する文字列の数、00 はその文字列のすべてを置換することを意味します。

02 は置換される文字列の長さです。

32 は 2 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

33 は 3 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

03 は置換後の文字列の長さです。

41 は A (置換文字列中の文字) の HEX 値です。

42 は B (置換文字列中の文字) の HEX 値です。

43 は C (置換文字列中の文字) の HEX 値です。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

00 は NUL の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

1ABC4AbcABC01ABCU



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

BA の例:バーコードデータに最初の「23」の発生だけを除去

バーコードにホストアプリケーションが削除したい文字列がある場合、BA コマンドで文字列を NUL に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードで最初に出現する「23」を削除します。

コマンド文字列: **BA0102323300F100**

BA は **Replace a string with another** コマンドです。

01 は置換する文字列の数です。

02 は置換される文字列の長さです。

32 は 2 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

33 は 3 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

00 は置換する文字列の長さ、00 は置換する文字列を NUL で置換することを意味します。

F1 は **Send all characters** コマンドです。

00 は NUL の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

14Abc23R0123U

EF デイレイを挿入

構文=EFnnnn (nnnn : 5ms 単位で最大 9999 までのデイレイ)。

現在のカーソル位置から最大 49,995 ミリ秒 (5 の倍数ごとに) のデイレイを挿入します。このコマンドは、USB HID キーボードでのみ実行可能です。

EF の例 : 5 文字目と 6 文字目の間に 1 秒の遅延を挿入

バーコードの最初の 5 文字を送信し、1 秒後、残りのバーコードデータの文字を送信します。

コマンド文字列: **F20500EF0200E900**

F2 は **Send a number of characters** コマンドです。

05 は送信する文字数です。

00 は Null 文字の HEX 値です。

EF は **Insert a delay (デイレイを挿入)** コマンドです。

0200 はデイレイの値(5ms×200=1000ms=1s)です。

E9 は **Send all but the last characters** コマンドです。

00 はメッセージの最後に送信されない文字の数です。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

B5 キーストロークの挿入

構文=B5nnssxx (nn : 押されたキーの数 (キー修飾子なし) 、ss : 下表のキー修飾子、xx : 付録の「Unicode キーマップ」のキー番号) 。

キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークはご利用のキーボードによって異なります (付録の「Unicode キーマップ」を参照) 。このコマンドは、USB HID キーボードでのみ使用できます。

キー修飾子	
キー修飾子なし	00
左 Shift キー	01
右 Shift キー	02
左 Alt キー	04
右 Alt キー	08
左 Ctrl キー	10
右 Ctrl キー	20

例えば、B501001F は、アメリカ式キーボードで「a」を挿入します。B5 はコマンド、01 は押されたキーの数 (キー修飾子なし) 、00 はキー修飾子なし、1F は「a」のキーです。仮に「A」が挿入された場合、B501011F または B501021F が入力されます。

キーストロークが 2 回の場合、構文は 1 回のキーストロークの構文=B5nnssxx から、Syntax=B5nnssxxssxx に変わります。「aA」の挿入例は右の通りです : B502001F011F

注意 : キー修飾子は、必要に応じて一緒に追加することができます。例 : 左 Shift + 左 Alt + 左 Ctrl =15



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

第12章 プリフィックス&サフィックス

概要

1次元バーコードには、数字、文字、記号などのデータが含まれています。2次元バーコードは、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含むことができます。しかし、実際の利用において、バーコードを短く柔軟性を保つために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要なすべての情報を持たず、持つべきではありません。

上記の要件を満たす方法に、プリフィックスとサフィックスがあります。これらは、元のバーコードデータを維持したまま、追加、削除、変更することができます。



バーコード処理プロセス

1. データフォーマットでデータ編集
2. プリフィックスとサフィックスの追加
3. データをパッキング
4. ストップキャラクターの追加



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

グローバル設定

全てのプリフィックスとサフィックスを有効化/無効化

Disable All Prefix/Suffixes (プリフィックスとサフィックスを無効化) : プリフィックス/サフィックスを追加せずにバーコードデータを送信します。

Enable All Prefixes/Suffixes (プリフィックスとサフィックスを有効化) : Code ID プリフィックス、AIM ID プリフィックス、カスタムプリフィックス/サフィックス、ストップキャラクタをバーコードデータに付加して送信することを許可します。



@APSENA0

プリフィックスとサフィックスを無効化



@APSENA1

プリフィックスとサフィックスを有効化

プリフィックスシーケンス



@PRESEQ0

Code ID+ カスタム +AIM ID



@PRESEQ1

カスタム + Code ID + AIM ID



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックスを有効化/無効化

カスタムプリフィックスを有効化すると、データに 10 文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。例えば、カスタムプリフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「AB123」を受信します。



@CPRENA0

カスタムプリフィックスを無効化



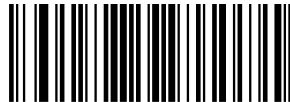
@CPRENA1

カスタムプリフィックスを有効化

カスタムプリフィックスを設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**Set Custom Prefix (カスタムプリフィックスを設定)** バーコードをスキャンし、次に必要なプリフィックスの HEX 値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save** バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムプリフィックスは、10 文字を超えることはできません。



@CPRSET

カスタムプリフィックスを設定



カスタムプリフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Prefix** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Prefix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

AIM ID プリフィックス

AIM (国際自動認識工業会) ID は、シンボロジー識別子を定義します (詳細は、付録の「AIM ID 表」を参照してください)。AIM ID プリフィックスが有効な場合、スキャンエンジンはデコード後、スキャンデータの前にシンボロジー識別子を追加します。



@AIDENA0

AIM ID プリフィックスを無効化)



@AIDENA1

AIM ID プリフィックスを有効化



AIM ID はユーザーがプログラムできません。



@SETUPE0

** Exit Setup

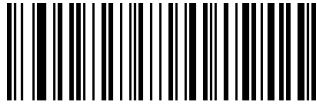


@SETUPE1

Enter Setup

Code ID プリフィックス

Code ID は、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM ID とは異なり、Code ID はユーザーがプログラムできます。CodeID は、1 文字または 2 文字の英字で構成されています。



@CIDENA0

Code ID プリフィックスを無効化



@CIDENA1

Code ID プリフィックスを有効化

全てのデフォルトの Code ID を復元

デフォルトの Code ID については、付録の「Code ID 表」の項目を参照してください。



@CIDDEF

全てのデフォルトの Code ID を復元

Code ID を変更

Code ID を変更し、各シンボロジーのデフォルトの Code ID を復元方法については、以下の例を参照してください。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



F417 Code ID を「p」 (HEX: 0x70)に変更する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Modify PDF417 Code ID** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「7」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

各シンボロジーの Code ID をデフォルトに戻す方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Restore All Default Code IDs** バーコードをスキャンします。
3. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

1次元シンボロジー



@CID002

Code 128 の Code ID を変更



@CID003

GS1-128 の Code ID を変更



@CID004

EAN-8 の Code ID を変更



@CID005

EAN-13 の Code ID を変更



@CID006

UPC-E の Code ID を変更



@CID007

UPC-A の Code ID を変更



@CID008

インタリーブド 2 of 5 の Code ID を変更



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



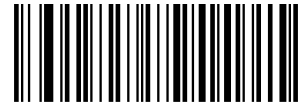
@CID009

ITF-14 の Code ID を変更



@CID010

ITF-6 の Code ID を変更



@CID011

マトリックス 2 of 5 の Code ID を変更



@CID013

Code 39 の Code ID を変更



@CID015

Codabar の Code ID を変更



@CID017

Code 93 の Code ID を変更



@CID020

AIM 128 の Code ID を変更



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@CID023

ISSN の Code ID を変更



@CID024

ISBN の Code ID を変更



@CID025

インダストリアル 25 の Code ID を変更



@CID026

スタンダード 25 の Code ID を変更



@CID027

Plessey の Code ID を変更



@CID028

Code 11 の Code ID を変更



@CID029

MSI-Plessey の Code ID を変更



@CID031

GS1 Databar の Code ID を変更



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

2次元シンボロジー



@CID032

PDF417 の Code ID を変更



@CID035

データマトリックスの Code ID を変更



@CID033

QR コードの Code ID を変更



@CID043

Micro QR コードの Code ID を変更



@SETUPE0

** Exit Setup



カスタムサフィックス

カスタムサフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに 10 文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「123AB」を受信します。



カスタムサフィックスを無効化



カスタムサフィックスを有効化

カスタムサフィックスを設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix** バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスの HEX 値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save** バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムサフィックスは、10 文字を超えることはできません。



カスタムサフィックスを設定



カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Custom Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Enable Custom Suffix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1

Enter Setup

データパッキング

概要

データパッキングは、送信前にデータをパックしてほしいという特定のユーザーのために設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響を与えるため、この機能が不要な場合は無効にすることをおすすめします。

データパッキングオプション

Disable Data Packing (データパッキングを無効化)：読み取ったデータを生のフォーマット（パケットなし）で送信します。

Enable Data Packing, Format 1 (データパッキング、フォーマット 1 を有効化)：以下で定義されるパケットフォーマット 1 を伴うコードされたデータを送信します。

パケットフォーマット 1: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC] STX : 0x02

ATTR : 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの 2 バイトで表示。

AL_TYPE: 0x36

DATA : バーコードの生データ。

LRC : チェックデジット

LRC の計算アルゴリズム : 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+DATA : 計算方法は XOR、1 バイト毎に計算。

Enable Data Packing, Format 2: (データパッキング、フォーマット 2 を有効化)

読み取ったデータを以下のパケットフォーマット 2 で送信します。

パケットフォーマット 2: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] +

[LRC]STX: 0x02

ATTR: 0x00

LEN : バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの 2 バイトで表示。

AL_TYPE: 0x3B

Symbology_ID: シンボロジーの ID 番号、1 バイト。

byte. DATA: 生バーコードデータ

LRC: チェックデジット

LRLRC 計算アルゴリズム : 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+Symbology_ID+DATA、計算方法は XOR、1 バイト毎に計算。



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



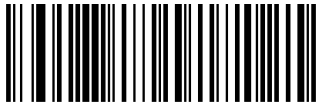
@PACKAG0

データパッキングを無効化



@PACKAG1

データパッキング フォーマット 1 を有効化



@PACKAG2

データパッキング フォーマット 2 を有効化



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

ストップキャラクタサフィックス

ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化

キャリッジリターン(CR)やキャリッジリターン/ラインフィード(CRLF)などのストップキャラクタは、データの終わりを示すためにのみ使用することができ、その後には何も加えることができません。



@TSUENA0

ストップキャラクタサフィックスを無効化



@TSUENA1

ストップキャラクタサフィックスを有効化

ストップキャラクタサフィックスを設定

ストップキャラクタサフィックスを設定する場合、**Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンし、次に必要なストップキャラクタサフィックスの HEX 値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save** バーコードをスキャンして完了です。

注意：ストップキャラクタのサフィックスは2文字を超えることはできません。



@TSUSET

ストップキャラクタサフィックスを設定



@TSUSET0D

ストップキャラクタを CR (0x0D) に設定



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@TSUSET0D0A

ストップキャラクタを CRLF (0x0D,0x0A)に設定)



ストップキャラクタのサフィックスを 0x0A に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションの **Save** バーコードをスキャンします。
5. **Enable Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** Exit Setup

第 13 章 プログラミングコマンド

プログラミングコマンドの使用

バーコードによるプログラミング方法の他に、ホスト機器から送信されるシリアルコマンド (HEX) により、スキャンエンジンを設定することができます。コマンドはすべて大文字で入力する必要があります。

クエリコマンド

クエリコマンドの場合、上記の構文のデータフィールドのエントリは、次の文字のいずれかを意味します。

* (HEX: 2A) 設定に対するスキャンエンジンの現在の値です。

& (HEX: 26) 設定の工場出荷時のデフォルト値です。

^ (HEX: 5E) 設定の可能な値の範囲です。

クエリコマンドの **StoreType** フィールドの値は、「@」 (HEX : 40) または「#」 (HEX : 23) のいずれかを指定できます。

SubTag フィールドが省略されたクエリコマンドは、タグに関するすべての設定を問い合わせることを意味します。例えば、Code11 に関する現在のすべての設定を問い合わせるには、7E 01 30 30 40 43 31 2A 3B 03 (例、~<SOH>0000@C11*;<ETX>) を入力します。

コマンド構文

Prefix StorageType Tag SubTag {Data} [,SubTag {Data}] [;Tag SubTag {Data}] [...] Suffix

プリフィックス : "~<SOH>0000" (HEX: 7E 01 30 30 30)、6 文字。

ストレージタイプ : 「@」 (HEX : 40) または「#」 (HEX : 23)、1 文字。

「@」は、スキャンエンジンの電源を切ったり再起動したりしても失われない永久的な設定を意味し、「#」は、スキャンエンジンの電源を切ったり再起動したりすると失われる一時的な設定を意味します。

Tag : 3 文字の大文字と小文字を区別するフィールドで、目的のコマンドグループを識別します。例えば、すべての USB HID キーボード構成設定は、KBW というタグで識別されます。

SubTag : 3 文字の大文字と小文字を区別するフィールドで、タググループ内の目的のパラメータを識別します。例えば、キーボードレイアウトの SubTag は CTY です。

Data : タグとサブタグによって識別される、機能またはパラメータ設定の値 d です。



@SETUPE0

** Exit Setup

サフィックス : ";<ETX>" (HEX: 3B 03)、2 文字。

1 つのプリフィックス/サフィックスシーケンス内で複数のコマンドを発行することができます。設定コマンドの場合、**Tag**、**SubTag**、**Data** フィールドのみ、各コマンドを順番に繰り返す必要があります。同じ **Tag** に追加コマンドを適用する場合は、コマンドをカンマ「,」で区切り、追加コマンドの **SubTag** フィールドと **Data** フィールドのみを発行します。追加コマンドが異なる **Tag** フィールドを必要とする場合、コマンドはセミコロン「;」で前のコマンドと分離されます。(;)。

レスポンス

コマンドシーケンスと異なり、レスポンスのプリフィックスは"<STX><SOH>0000" (HEX : 02 01 30 30 30) の 6 文字で構成されます。

スキャンエンジンはシリアルコマンドに対して、以下の 3 つのレスポンスのいずれかで応答します :

<ACK> (HEX: 06) 処理された良好なコマンドであることを示しています。

<NAK> (HEX: 15) この Tag と SubTag の組み合わせの許容範囲外のデータフィールドの入力 (例えば、フィールドが 2 桁しか許容しないのに 100 のキーストローク間のディレイの入力)、または無効なクエリコマンドを持つ良好な設定コマンドを示しています。

<ENQ> (HEX: 05) 無効な Tag または SubTag コマンドを示しています。

応答するとき、エンジンはコマンドの句読点 (コンマまたはセミコロン) の直前に上記のステータス文字を挿入したコマンドシーケンスをエコーバックします。

実例

例 1: Code 11 を有効化して、最小、最大の長さをそれぞれ 12 と 22 に設定。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 2C 4D 49 4E 31 32 2C 4D 41 58 32 32 3B 03
(~<SOH>0000@C11ENA1,MIN12,MAX22;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 06 2C 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03
(<STX><SOH>0000@C11ENA1<ACK>,MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>)

例 2: Code 11 の最大と最小の長さをクエリ。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 2A 2C 4D 41 58 2A 3B 03
(~<SOH>0000@C11MIN*,MAX*;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03
(<STX><SOH>0000@C11MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>)



@SETUPE0

** Exit Setup

バーコード読み取りのオン/オフ

Read Barcode Off コマンド~<<SOH>0000#SCNENA0;<ETX>をスキャンエンジンに送信すると、バーコードの読み取りができなくなり、**Read Barcode On** コマンド~<SOH>0000#SCNENA1;<ETX>をエンジンに送信するか再起動するまでスキャンエンジンはバーコードの読み取りができません。初期設定では、オンに設定されています。

ブザー音を設定

ホスト機器から送信されるコマンドに応じて、スキャンエンジンにブザー音を強制的に鳴らすことができます。ブザー音は、エラーやその他の重要なイベントに対してユーザーの注意を喚起するために鳴らします。

BEEPONxxxFyyyTnnV (xx : 指定する周波数 (1~20,000Hz) 、yyy : yyy: 1~10,000ms、nn: 1~20 (最小~最大) の音量レベル)

例: 音量レベル 2 で 2000Hz のブザーを 50ms 鳴らす。

入力: ~<SOH>0000#BEEPON2000F50T20V;<ETX>

レスポンス: <STX><SOH>0000#BEEPON2000F50T20V<ACK>;<ETX>



@SETUPE0

** Exit Setup

グッドリード LED をオン

ホスト機器から送信されるコマンドで、スキャンエンジンの外部のグッドリード LED を一定時間点灯させることができます。なお、このコマンドを実行しているときは、スキャンエンジンはバーコードをスキャンできません。持続時間は 10～10000ms です。

スキャンエンジンがこの機能に対応しているか確認するクエリコマンド：LEDONS*またはLEDONS&。

LEDONS<ACK>を返すと、スキャンエンジンがこの機能に対応していることを示します。

設定可能な値の範囲のクエリコマンド：LEDONS^

LEDONS-2C10-10000D <ACK> を返すと、LED が点灯している時間の範囲が 10～10000ms であることがわかります。

例: グッドリード LED を 1,000ms 間点灯させる

入力: ~<SOH>0000#LEDONS2C1000D;<ETX>

レスポンス: <STX><SOH>0000#LEDONS2C1000D<ACK>;<ETX>

イルミネーション LED をオン

ホスト機器から送信されるコマンドで、スキャンエンジン内部のイルミネーション LED を一定時間点灯させることができます。なお、このコマンドを実行しているときは、スキャンエンジンはバーコードをスキャンできません。持続時間は 10～10000ms です。

スキャンエンジンがこの機能に対応しているか確認するクエリコマンド：LEDONI*またはLEDONI&。

LEDONI<ACK>を返すと、スキャンエンジンがこの機能に対応していることを示します。

設定可能な値の範囲のクエリコマンド：LEDONS^

LEDONI-0C10-10000D <ACK> を返すと、LED が点灯している時間の範囲が 10～10000ms であることがわかります。

例: イルミネーション LED を 1,000ms 間点灯させる

入力: ~<SOH>0000#LEDONI0C1000D;<ETX>

レスポンス: <STX><SOH>0000#LEDONI0C1000D<ACK>;<ETX>



エイマーをオン

ホスト機器から送信されるコマンドで、スキャンエンジンのエイマーを一定時間オンにすることができます。なお、このコマンドを実行しているときは、スキャンエンジンはバーコードをスキャンできません。持続時間は10～10000msです。

スキャンエンジンがこの機能に対応しているか確認するクエリコマンド：LEDONA*またはLEDONA&。

LEDONA<ACK>を返すと、スキャンエンジンがこの機能に対応していることを示します。

設定可能な値の範囲のクエリコマンド：LEDONA^

LEDONA10-10000D <ACK> を返すと、エイマーが有効な時間の範囲が 10～10000ms であることがわかります。

例: エイマーを 1,000ms 間オンにする

入力: ~<SOH>0000#LEDONA1000;<ETX>

レスポンス: <STX><SOH>0000#LEDONA1000<ACK>;<ETX>



@SETUPE0

** Exit Setup

第 14 章 バッチプログラミング

概要

バッチプログラミングでは、コマンドのバッチを 1 つのバッチバーコードに統合することができます。

バッチプログラミングのルールを以下に示します。

1. コマンドフォーマット：コマンド+パラメータ値。
2. 各コマンドはセミコロン (;) で終了します。コマンドとその終端のセミコロンの間にはスペースがありません。
3. バーコード生成ソフトウェアを使用して、2 次元バッチバーコードを生成します。

例：Normal Illumination, Sense Mode, Decode Session Timeout = 2s, Disable Interleaved 2 of 5 のバッチバーコードを

作成

1. コマンドを入力します。

```
@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;I25ENA0;
```

2. バーコードを生成します。

上記の構成でスキャンエンジンを設置する場合、**Enable Batch Barcode** (バッチバーコードを有効化) バーコードをスキャンしてから、生成されたバッチバーコードをスキャンします。



@BATCHS

バッチコードを有効化



@SETUPE0

** Exit Setup

バッチコマンドを作成

バッチコマンドには、複数の個別コマンドを含めることができ、各コマンドはセミコロン (;) で終了します。詳しくは、第 3 章の「プログラミングコマンドの使用」のセクションを参照してください。

バッチバーコードを作成

バッチバーコードは、PDF417、QR コード、データマトリックスのいずれかの形式で作成できます。

例 : **Normal Illumination, Sense Mode, Decode Session Timeout = 2s** のバッチバーコードを生成

1. 以下のコマンドを入力します。

```
@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;
```

2. PDF417 バッチバーコードを生成します。



@SETUPE0

** Exit Setup

バッチバーコードを使用

バッチバーコードを使用する際、以下のバーコードをスキャンします(上記の例を使用)。



英数字バーコード

0~9



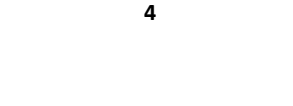
@DIGIT0
0



@DIGIT1
1



@DIGIT2
2



@DIGIT3
3



@DIGIT4
4



@DIGIT5
5



@DIGIT6
6



@DIGIT7
7



@SETUPE0

** Exit Setup



A~F



@DIGITA

A



@DIGITC

C



@DIGITE

E



@DIGITB

B



@DIGITD

D



@DIGITF

F



@SETUPE0

** Exit Setup

バーコードを保存/キャンセル

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、**Save** バーコードをスキャンする必要があります。

間違った桁をスキャンした場合は、**Cancel** バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、**Delete the Last Digit** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または **Delete All Digits** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例：最大長さ（最大長さ）のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

- ◇ **Delete the Last Digit**（最後の桁を削除）：最後の桁の「3」が削除されます。
- ◇ **Delete All Digits**（全ての桁を削除）：数字「123」が全て削除されます。
- ◇ **Cancel**（キャンセル）：最大長さの設定がキャンセルされます。また、スキャンエンジンはまだセットアップモードのままです。



@DIGSAV
保存



@DIGCAN
キャンセル



@DIGDEL
最後の桁を削除



@DIGDAL
全ての桁を削除

工場出荷時設定表(ST.T12.H4)

パラメータ	工場出荷時設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	無効化 (設定終了)	
プログラミングバーコードデータ	送信しない	
内蔵イルミネーション	通常	
エイミング	通常	
グッドリード LED	オン	
グッドリード LED の持続時間	短 (20ms)	
電源 オンブザー	オン	
グッドリードブザー	オン	
グッドリードブザーの持続時間	中 (80ms)	
グッドリードブザーの周波数	中 (2730Hz)	
グッドリードブザーの音量	大音量	
スキャンモード	センスモード	
デコードセッションタイムアウト	3,000ms	1-3,600,000ms; 0: Infinite
手振れ補正タイムアウト (センスモード)	500ms	0-3,000ms
スキャン間隔	0	
再読み取りタイムアウト	無効化 1500ms	0-3,600ms
再読み取りタイムアウトをリセット	オフ	
画像デコードタイムアウト	500ms	1-3000ms
グッドリードのディレイ	無効化, 500ms	1-3,600,000ms
セキュリティレベル	セキュリティレベル 1	
感度	感度強化	
トリガーコマンド	無効化	
Start Scanning コマンド	<SOH> T <EOT>	
Stop Scanning コマンド	<SOH> P <EOT>	
バーコード別スキャン設定	通常 モード	
バーコード読み取り	オン	
デコード範囲	全体をデコード	
特定のデコード範囲	上 40%、下 60%、左 40%、右 60%	
画像反転	画像反転しない	
読み取りエラーメッセージ	オフ NG	
オートスリープ	無効化	
スリープまでのアイドル時間	15s	
デフォルトインターフェース	USB キーボード	
TTL-232 インターフェース		
ボーレート	9600	
パリティチェック	なし	
データビット	8	
ストップビット	1	
USB インターフェース		
USB 国別キーボードタイプ	アメリカ	USB HID キーボード
不明な文字の警告ブザー	オフ	USB HID キーボード
Emulate ALT+キーパッド	オフ	USB HID キーボード
コードページ	Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)	USB HID キーボード
Unicode エンコード	オフ	USB HID キーボード
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	オン	USB HID キーボード
ファンクションキーマッピング	無効化	USB HID キーボード
キーストローク間のディレイ	ディレイなし	USB HID キーボード
Caps Lock	Caps Lock オフ、非日本語キーボード	USB HID キーボード

大文字小文字の入れ替え	変換なし	USB HID キーボード
テンキーをエミュレート 1	オフ	USB HID キーボード
テンキーをエミュレート 2	オフ	USB HID キーボード
ファストモード	オフ	USB HID キーボード
ポーリングレート	4ms	USB HID キーボード
適用されるワイヤー通信	オン	
シンボロジー		
グローバル設定		
GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲む	GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲まない	
Code 128		
Code 128	有効化	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ	送信しない	
FNC1 出力	オン	
EAN-8		
EAN-8	有効化	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効化	
5桁のアドオンコード	無効化	
アドオンコード	リクエストしない	
EAN-8 から EAN-13 へ変換	無効化	
EAN-13		
EAN-13	有効化	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効化	
5桁のアドオンコード	無効化	
アドオンコード	リクエストしない	
290 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
378/379 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
414/419 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
434/439 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
977 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
978 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
979 で始まる EAN-13 バーコードのアドオンコードをリクエスト	アドオンコードをリクエストしない	
UPC-E		
UPC-E	有効化	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効化	
5桁のアドオンコード	無効化	
アドオンコード	リクエストしない	
プリアンブルキャラクタを送信	システムキャラクタ	
UPC-E から UPC-A へ変換	無効化	
UPC-A		
UPC-A	有効化	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効化	

5桁のアドオンコード	無効化	
アドオンコード	リクエストしない	
プリアンブルキャラクタを送信	プリアンブルなし	
インタリーブド 2 of 5		
インタリーブド 2 of 5	有効化	
最大長さ	80	
最小長さ	6	
チェックキャラクタ検証	無効化	
Febraban		
Febraban	無効化	
キャラクタあたりのディレイを送信	無効化 70ms	
12キャラクタあたりのディレイを送信	無効化 500ms	
ITF-14		
ITF-14	無効化	
ITF-6		
ITF-6	無効化	
マトリックス 2 of 5		
マトリックス 2 of 5	有効化	
最大長さ	80	
最小長さ	4	4 以下
チェックキャラクタ検証	無効化	
Code 39		
Code 39	有効化	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ検証	無効化	
スタート/ストップキャラクタ	送信しない	
Code 39 フルアスキー	無効化	
Code 32 (イタリア製薬業界用コード)	無効化	
Code 32 プリフィックス	無効化	
Code 32 スタート/ストップキャラクタ	送信しない	
Code 32 チェックキャラクタ	送信しない	
Codabar		
Codabar	有効化	
最大長さ	60	
最小長さ	2	
チェックキャラクタ検証	無効化	
スタート/ストップキャラクタ	送信しない ABCD/ABCD	
Code 93		
Code 93	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効化	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ	送信しない	
FNC1 出力	オン	
GS1 Databar		
GS1 Databar	有効化	
GS1 Databar Omnidirectional (RSS14)	有効化	
GS1 Databar Limited	有効化	
GS1 Databar Expand	有効化	

最大長さ	64	
最小長さ	1	
アプリケーション識別子「01」	送信する	
Code 11		
Code 11	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	4	
チェックキャラクタ検証	1種のチェックキャラクタ、MOD11	
チェックキャラクタ	送信する	
ISBN		
ISBN	無効化	
ISBN フォーマットを設定	ISBN-10	
ISSN		
ISSN	無効化	
インダストリアル 25		
インダストリアル 25	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	6	
チェックキャラクタ検証	無効化	
スタンダード 25		
スタンダード 25	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	6	
チェックキャラクタ検証	無効化	
Plessey		
Plessey	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	4	
チェックキャラクタ検証	無効化	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	4	
チェックキャラクタ検証	1種のチェックキャラクタ、MOD10	
チェックキャラクタ	送信する	
AIM 128		
AIM 128	無効化	
最大長さ	48	
最小長さ	1	
チェックキャラクタ	送信しない	
FNC1 出力	オン	
PDF417		
PDF417	有効化	
最大長さ	2710	
最小長さ	1	
PDF417 ツインコード	いずれか一方の PDF417 のみ	
文字エンコード	デフォルトの文字エンコード	
PDF417 ECI 出力	有効化	
QR コード		
QR コード	有効化	
最大長さ	6144	
最小長さ	1	
QR ツインコード	いずれか一方の QR コードのみ	
文字エンコード	デフォルトの文字エンコード	
QR ECI 出力	有効化	

Micro QR コード		
Micro QR	有効化	
最大長さ	35	
最小長さ	1	
Aztec		
Aztec コード	無効化	
最大長さ	6144	
最小長さ	1	
文字エンコード	デフォルトの文字エンコード	
Aztec ECI 出力	有効化	
データマトリックス		
データマトリックス	有効化	
最大長さ	3116	
最小長さ	1	
データマトリックスツインコード	いずれか一方のデータマトリックスコードのみ	
長方形バーコード	有効化	
文字エンコード	デフォルトの文字エンコード	
データマトリックス ECI 出力	有効化	
データフォーマット		
データフォーマット	無効化	
非適合エラー通知ブザー	オフ	
データフォーマット選択	Format_0	
プリフィックス & サフィックス		
全てのプリフィックス/サフィックス	無効化	
プリフィックスシーケンス	Code ID+ カスタム +AIM ID	
カスタムプリフィックス	無効化	
AIM ID プリフィックス	無効化	
Code ID プリフィックス	無効化	
カスタムサフィックス	無効化	
データパッキング	データパッキングを無効化	
ストップキャラクタサフィックス	有効化、0X0D	



@SETUPE0

** Exit Setup

AIM ID 表(V2022.6)

シンボロジー	AIM ID	可能な AIM ID 修飾子 (m)
Code 128]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)]C1	
EAN-8]E4	
EAN-13]E0	
アドオンコード付き EAN-8]E3	
EAN-13]E0	
アドオンコード付き EAN-13]E3	
UPC-E]E0	
アドオンコード付き UPC-E]E3	
インタリーブド 2 of 5]Im	0, 1, 3
ITF-14]Im	1, 3
ITF-6]Im	1, 3
マトリックス 2 of 5]X0	
Code 39]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7
Codabar]Fm	0, 2, 4
Code 93]G0	
AIM 128]C2	
ISSN]X0	
ISBN]X0,]E0,]E3	
インダストリアル 25]S0	
スタンダード 25]Rm	0, 1, 3
Plessey]P0	
Code 11]Hm	0, 1, 3
MSI Plessey]Mm	0, 1
GS1 Databar(RSS)]e0	
PDF417]Lm	0-5
QR コード]Qm	0-6
Aztec]zm	0-9, A-C
データマトリックス]dm	0-6
Micro QR コード]Qm	0-6

Code ID 表(V1.00.0)

シンボロジー	Code ID
Code128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
インタリーブド 2 of 5	e
ITF-14	e
ITF-6	e
マトリックス 2 of 5	v
Code 39, Code 32	b
Codabar	a
Code 93	i
AIM 128	X
ISSN	g
ISBN	B
インダストリアル 25	l
スタンダード 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1 Databar (RSS)	R
PDF417	r
QR コード	s
Aztec	z
データマトリックス	u
Micro QR	X



@SETUPE0

** Exit Setup

シンボロジーID表(V1.00.0)

シンボロジー	ID
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
インタリーブド 2 of 5	008
ITF-14	009
ITF-6	010
マトリックス 2 of 5	011
Code 39, Code 32	013
Codabar	015
Code 93	017
AIM 128	020
ISSN	023
ISBN	024
インダストリアル 25	025
スタンダード 25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QR コード	033
Aztec	034
データマトリックス	035
Micro QR	043

ASCII 表

HEX	Dec	記号
00	0	NUL (NUL 文字)
01	1	SOH (ヘッダ開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終了)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (ホリゾンタルタブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンクエスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイスコントロール 1)
12	18	DC2 (デバイスコントロール 2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイスコントロール 3)
14	20	DC4 (デバイスコントロール 4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスブロックの終了)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (エンドオブメディア)
1a	26	SUB (サブスティテュート)
1b	27	ESC (エスケープ)
1c	28	FS (ファイルセパレータ)
1d	29	GS (グループセパレータ)



@SETUPE0

** Exit Setup

HEX	Dec	記号
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (ユニットセパレーター)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (エクスクラメーションマーク)
22	34	" (ダブルクォーテーション)
23	35	# 数字記号
24	36	\$ (ドル記号)
25	37	% (パーセント)
26	38	& (アンド記号)
27	39	(シングルクォート)
28	40	((左/開始括弧)
29	41) (右/閉じ括弧)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+ (プラス)
2c	44	, (コンマ)
2d	45	- (マイナス/ダッシュ)
2e	46	. (ドット)
2f	47	/ (前スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロン)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (不等号<)
3d	61	= (等号)

HEX	Dec	記号
3e	62	> (不等号>)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(左/ブラケット)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93] (右/閉じブラケット)



@SETUPE0

** Exit Setup

HEX	Dec	記号
5e	94	^ (キャレット/サーカムフレックス)
5f	95	_ (アンダースコア)
60	96	' (グレイヴ・アクセント)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (左括弧)
7c	124	(垂直棒)
7d	125	} (右括弧)
7e	126	~ (チルト)
7f	127	DEL (削除)

Unicode キーボード表

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•		
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B				5C	61	66		
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53		5D	62	67	6C		
3A	3B	3C	3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68					

アメリカ式キーボード (104 キー)

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	•	•	•		
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1D				5C	61	66		
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53		5D	62	67	6C	
3A	3B	3C	3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68					





ヨーロッパ式キーボード (105 キー)



@SETUPE0

** Exit Setup

Newland AIDC

 No.1 Rujiang West Rd., Mawei, Fuzhou, Fujian 350015, China
 +86-591-83979500  info@newlandaidc.com  www.newlandaidc.com

Asia Pacific

Add: 6 Raffles Quay #14-06 Singapore 048582
Email: info@newlandaidc.com

Taiwan:
Add: 7F-6, No. 268, Liancheng Rd.,
Jhonghe Dist. 235, New Taipei City,
Taiwan
Tel: +886 2 7731 5388
Email: info@newlandaidc.com

Japan:
住所: 〒108-0075
東京都港区港南1丁目9-3 6
アレア品川ビル13階 407
電話: +84 03 4405 3222
メール: info@newlandaidc.com

Korea:
Add: Biz. Center Best-one, Jang-eun Medical
Plaza 6F, Bojeong-dong 1261-4, Kihung-gu,
Yongin-City, Kyunggi-do, South Korea
Tel: +82 10 8990 4838
Email: info@newlandaidc.com

Indonesia:
Add: Eightyeight@kasablanka Tower A 12th
Floor Unit A&H, Jl. Casablanca Raya Kav. 88,
Jakarta Selatan 12870
Tel: +62 8161157247
Email: info@newlandaidc.com

Vietnam:
Tel: +84 909 345 375
Email: info@newlandaidc.com

India:
Add: 416 & 417, Tower C, NOIDA ONE
business park, B-8, Sector 62, Noida,
Uttar Pradesh - 201301
Tel: +91 120 3508102
Email: info@newlandaidc.com

Europe & Middle East & Africa

Add: Rolweg 25, 4104 AV Culemborg, The Netherlands
Tel: +31 (0) 345 87 00 33 Web: www.newland-id.com
Email: sales@newland-id.com Tech Support: tech-support@newland-id.com

North America

Add: 46559 Fremont Blvd., Fremont, CA 94538, USA
Tel: +1 510 490 3888
Email: info@newlandaidc.com

North America Channel:
Tel: +1 408 838 3703
Email: info@newlandaidc.com

Latin America

Tel: +1 239 598 0068
Email: info@newlandaidc.com

Brazil:
Tel: +55 35 9767 6078

Chile:
Tel: +56 9 9337 3177

Colombia:
Tel: +57 319 387 4484

Mexico, Central America & Caribbean:
Tel: +52 155 5432 9079

